

茨城県北東地域の昆虫類

茨城動物研究会

阿武隈山地高萩市上君田 滝の倉湿原のトンボ

はじめに

阿武隈山地南部、久慈郡里美村岡見の三鉢室山を源とする大北川の上流は高萩市に流れ花園山栄蔵室からの水量を山腹の柳沢で合せて南下する。一方、高萩市上君田の根岸川や滝の倉川を集めた宿川は下君田集落辺りで北から大北川に合流する。この大北川は曲折を繰り返しながら東進し、小山では小山川、横川では横川川を合せ北茨城市の山間を走りながら四季変化に富んだ渓谷美を見せる。やがて清流は平地に流れ、下流域で花園川等を合して太平洋に注ぐ（ふるさといばらきの山 編集委員会，1991；山本，1991）。

こうした阿武隈準平原の残丘とされる花園山(798 m)、栄蔵室(881.6 m)、三鉢室山(870.6 m)等の東斜面を源流域とする水系の源流周辺には、亀谷地湿原、岡見湿原、それに滝の倉湿原と呼ばれる、それぞれの面積が数ヘクタール程度の湿原が散在している。また、残丘の間には分水嶺からの水を集め東進、または南下して深い谷を刻む溪流や山間の小河川が流れ潤す盆地がいくつも存在している。

北茨城市、高萩市、里美村に関わる山地の昆虫類の研究史は半世紀以上の歴史があり、高萩市、里美村ではそれぞれ行政体による調査結果を収録した自然誌が発行されている。（広瀬，1971，1973a，1973b；沼田ほか，1974；高萩市，1976；日置・広瀬，1977；大津，1980；茨城県環境局，1985；高萩市教育委員会，1987；山本，1991；里美村教育委員会，1993；茨城生物の会，1994；茨城県生活環境部，1995；茨城県，1997；茨城県，2000；浜島ほか，2001）

今回の調査地、高萩市上君田滝の倉湿原は、東経140°32′11″、北緯36°46′11″の上君田集落の凡そ4 km北西に位置し、標高は720～730 mの中間湿原である。

この地の植生についての調査は1970年代に開始され、総合的な報告書、「高萩の植物」は、「上君田から里美村方面に入った大北川の源流に約2haの広がりをもつ湿地が開け、そこにサギスゲやミツガシワの少な

り大きな群落が見られる」と解説し、1974年7月の調査で、ノハナショウブ等43種の湿地性の植物名を挙げ、湿地に侵入してきている樹木としては、ヤマハンノキ、ノリウツギ、アカマツ、リョウブ、スギ、ヒノキ、ミズキ、クマシデを指摘し、湿地内に小高い場所もあることを記録している（高萩市，1976）。また、地元の植物研究者の大津直光は、湿地に小さな流れがあって、沿岸の流れにはサギスゲ、ミズチドリ、トキソウ、ミツガシワなどの植物を見て（大津，1980）。

滝の倉湿原を含む高萩市、それに北茨城市と里美村といった福島県境に座する県北山地の昆虫相の究明、なかでもトンボ類の調査研究は1940年代後半から廣瀬によって開始され、終戦間もない北茨城市花園山の亀谷地湿原のハッチョウトンボ（広瀬，1953）、やがて1970年代には里美村岡見湿原一帯でもハッチョウトンボ等（沼田ほか，1974）の記録が続いた。高萩市では1988年から3年間、総合的な動物調査が実現し、報告書「高萩の動物」において、トンボ目昆虫は10科67種が記録された（高萩市，1991）。その資料の中では、トンボ類の記録地として大字名で上君田と記された種数は37種であった。

1960年代後半から広く県北山地の森林伐採は進行し、山間には整備された林道が走り、木材搬出用の周辺道路は舗装され、水源地や沢は荒れ果ててしまった。森林伐採に伴う源流域の水の枯渇が問題になり、それは直接的に山間の湿原の乾燥化をもたらし、湿地性植物の減少という面で問題化し、同時に動物相も急速に攪乱され、単純化の方向を示した。花園山亀谷地湿原の大半は林道が横断して乾燥化の結果、その地の一部に他の地から水生植物が移植されて公園化されてしまった。周囲三方の森林が伐採されてしまった岡見湿原は、全体的にガマ等の大型植物の繁茂する場所となり、水域は林縁に僅かに残る状態である。この両地においては、水生動物であるトンボ類の生息は湿原乾燥化の影響を受けて貧弱化してしまった。

亀谷地湿原や岡見湿原と異なり湿原植生の安定度が高いと評価されている滝の倉湿原の動物相の現状はどうか、2000年4月から2003年2月まで、高萩市上君田滝の倉湿原、それに北茨城市、里美村の山間の湿原や水系のトンボ類を調査した。

調査地および記録の方法

2000年春から2003年早春までの3年間の調査期間中、延べ46日を調査に当てた。調査地点は、北茨城市では花園山周辺、花園川、和尚山麓を流れる四時川沿岸、高萩市では上君田地区と花貫川沿岸、それに里美村の里川流域であったが、主力は上君田滝の倉湿原に向けた(図1-4)。

主として調査区域の森林、路上、河川、池沼、湿原、休耕田、市街地等を歩き、聞き込みによる情報を確認



図1. 滝の倉湿原内の流れ。伸び上ったミツガシワの茎、水温10度。2002年4月22日撮影。



図2. 滝の倉川。ヒガシカワトンボの幼虫が生息し、ムカシトンボが探雌飛翔する細流。2002年4月22日撮影。



図3. 滝の倉湿原盛夏。湿原内の流れは繁茂する草で覆われてしまう。2002年8月1日撮影。



図4. 滝の倉湿原初冬。枯れ草の中に流れが再現する。ここにハッチョウトンボやオゼイトンボの幼虫が生息する。2001年11月23日撮影。

する作業も続けた。野外にあつては、目視によってトンボ目昆虫の種の同定を行い、個体数を数え、生態的な観察内容を記録し、同時に写真記録も残した。目視による調査でも小型種においては、可能な限りにおいて、幼虫・成虫ともに採取しての同定を行い、調査の正確さを期したが、確認後は一部を除いて、その場で解放した。

滝の倉湿原においては、春、夏、秋の各季節毎に2回の調査を実施し、成虫は原則として湿原内のルートセンサスにより、調査時間は1時間に限定した。幼虫は経60cmの丸網を用い、停水域、流れ、湿原周囲を流れる溪流にあつては幼虫の生息に適したと思われる水域を探り、種名、個体数を集計した。さらに、岸辺等では羽化殻の採集も行った。

調査結果

過去の文献上の記録や今回の実地調査の成果を基に集計すると亀谷地湿原、岡見湿原、それに滝の倉湿原で確認できたトンボ目昆虫の種は表1のようになる。

表 1. 阿武隈山地湿原のトンボ類目録.

学名	和名	調査地		
		滝の倉	亀谷地	岡見
ODONATA	トンボ目			
AGRIONIDAE	イトトンボ科			
<i>Mortonagrion selenion</i>	モートンイトトンボ	○	●	●
<i>Ischnura asiatica</i>	アジアイトトンボ	○		
<i>Coenagrion terue</i>	オゼイトトンボ	○	○	●
LESTIDAE	アオイトトンボ科			
<i>Sympecma paedisca</i>	オツネトンボ	○	○	●
<i>Indolestes peregrinus</i>	ホソミオツネトンボ		●	○
<i>Lestes sponsa</i>	アオイトトンボ	○	●	
<i>Lestes temporalis</i>	オオアオイトトンボ		●	
CALOPTERYGIDAE	カワトンボ科			
<i>Calopteryx cornelia</i>	ミヤマカワトンボ		●	○
<i>Mnais pruinosa costalis</i>	ヒガシカワトンボ	○	●	●
EPIOPHLEBIIDAE	ムカシトンボ科			
<i>Epiophlebia superstes</i>	ムカシトンボ	○	○	●
COMPHIDAE	サナエトンボ科			
<i>Anisogomphus maacki</i>	ミヤマサナエ		●	●
<i>Davidius moiwanus moiwanus</i>	モイワサナエ	○	●	●
<i>Davidius nanus</i>	ダビドサナエ	○	●	●
<i>Davidius fujiana</i>	クロサナエ	○	●	
<i>Lanthus fujiacus</i>	ヒメクロサナエ	○	●	●
<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>	ヒメサナエ		●	
AESCHNIDAE	ヤンマ科			
<i>Planaeschna milnei</i>	ミルンヤンマ	○	●	●
<i>Gymacantha japonica</i>	カトリヤンマ			●
<i>Aeschna juncea</i>	ルリボシヤンマ	○	○	●
<i>Aeschna nigroflava</i>	オオルリボシヤンマ		●	●
CORDULEGASTERIDAE	オニヤンマ科			
<i>Anotogaster sieboldii</i>	オニヤンマ	○	○	○
CORDULIIDAE	エゾトンボ科			
<i>Somatochlora viridiaenea atrovirens</i>	オオエゾトンボ	○	●	●
<i>Somatochlora uchidai</i>	タカネトンボ		●	●
LIBELLULIDAE	トンボ科			
<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	シオカラトンボ	○	●	○
<i>Orthetrum japonicum japonicum</i>	シオヤトンボ	○	○	●
<i>Orthetrum triangulare melania</i>	オオシオカラトンボ	○	○	○
<i>Nannophya pygmaea</i>	ハッチョウトンボ	○	○	●
<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	ミヤマアカネ		●	○
<i>Sympetrum darwinianum</i>	ナツアカネ	○	●	○
<i>Sympetrum frequens</i>	アキアカネ	○	○	○
<i>Sympetrum parvulum</i>	ヒメアカネ	○		
<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	マユタテアカネ	○	●	
<i>Sympetrum infuscatum</i>	ノシメトンボ	○	○	○
<i>Sympetrum speciosum speciosum</i>	ネキトンボ	○		
<i>Pantala flavescens</i>	ウスバキトンボ	○	●	●
	種合計数	26	31	27

1999年までの記録種で、調査期間中確認できた種 ○、確認できなかった種 ●。

亀谷地湿原においては、過去に確認され記録のある種 31 の中で 10 種が確認でき、溪流性のサナエトンボ類はすっかり姿を消し、オゼイトトンボ、ハッチョウトンボ等は湿原の西南部に残る水域に生息が限定され、ムカシトンボにしても湿原上を飛翔することはなくなりました。また、調査期間中に確認できた種の全ての個体数が減少しているという印象をうけた。岡見湿原においても同様な減少傾向を示し過去の記録種 27 種の中で 9 種確認という結果であった。岡見一帯の溪流を伴う水域を特徴づけたサナエトンボ科、ヤンマ科の全ては消えてしまった。

滝の倉湿原においてはトンボ目 9 科 26 種が記録できた。この種数は、同時に調査した亀谷地湿原、岡見湿原の過去の記録種数には及ばないにしても、現存の種類数では両地を遙かに凌駕しており、両地より湿原の水環境が比較的良好であることを示す種数であろう。

滝の倉湿原のトンボ

調査期間中に確認できた全種についての解説は、採集または観察の記録例とこの湿原での生態的な特色の記述、その他の順である。

イトトンボ科 AGRIONIDAE

(1) モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion*

Aug 2. 2002 1 ♂ 1 ♀

体長 23 ~ 27 mm, 後翅長 12 ~ 15 mm, 小型のイトトンボで湿地にできた小面積の池や水溜りの水面上に 6 月下旬から 8 月上旬まで見られる。雌の体色は成熟に伴い橙色から汚れた緑色に変化する。午前中に交尾後、雌は単独で水中の植物体組織に産卵する。亀谷地湿原、岡見湿原共に湿原の乾燥で姿を消した。茨城県では広く山間の湿地に生息しているが個体数は多くない。

(2) アジアイトンボ *Ischnura asiatica*

Jul 1. 2002 2 ♂ 1 ♀

体長 23 ~ 28 mm, 後翅長 12 ~ 14 mm, 低地の池沼においては普通種で、春 4 月から姿を見せるが、標高 700 m のこの湿原では 7 月上旬、浅い池の水辺で羽化直後の個体を見る。現在まで、茨城県において、本種の生息が確認できた最高標高地である。湿原内、個体数は少なく、成虫は茂った草の間を弱々しく飛び、落下するようにしてスゲ類などの草の蔭に姿を消してしまう。交尾、産卵ともに確認していない。雌は未熟な期間、体色は朱色を帯び、成熟すると緑色に変わる。雄

には体色の変化は見られない。年 1 回の発生であろう。

(3) オゼイトトンボ *Coenagrion terue* (図 5)

Aug 1. 2001 4 ♂, Jul 22. 2002 1 ♂ 1 ♀

体長 35 ~ 39 mm, 後翅長 20 ~ 21 mm, 本州東北部から北海道に分布する我が国固有種で、尾瀬ヶ原産の個体を基に記録された。北関東地方では山間の湿原に生息し、出現期間は短く個体数も多くない。県内では広く低地から山間の湿原に生じた湧水や滲出水を集めた浅い止水域に生息している。日当たりの良い湿原内の水域、水面から突き出すように伸びたスゲの茎先などに静止して餌を待つ雄は、時には水面上を低く飛んで雌を探す。成熟時には水面上に雄雌複数の個体が見られる。交尾は晴れた日の午前中に済み、すぐさま、連結した状態で、水中に浸る植物体の組織内に産卵を開始する。幼虫は浅い水中に住む。スゲ類の根や茎に掴まる成熟した個体を観察できた。本県においては、阿武隈山地、鶏足山塊、さらに平野部では東茨城台地、那珂台地、海岸線では日立市、ひたちなか市等の小さな池沼、湿原、休耕田跡と広範囲の記録があり、筑波山塊の山麓部の湿原にも生息が確認でき、この筑波山一帯、八郷町の生息記録地が東日本、太平洋岸の南限地となっている (図 14)。



図 5. オゼイトトンボ。連結して植物組織内に産卵する様子。直立して警戒中の雄は産卵行動を妨害する雄の接近を許さない。2002年 6 月 22 日撮影。

アオイトトンボ科 LESTIDAE

(4) オツネイトンボ *Sympecma paedisca*

Oct 6. 2002 2 ♂

体長 36 mm, 後翅長 22 mm, 我が国に生息する成虫で越冬するトンボ 3 種の中では越冬トンボとして周知されている種であるが、1970 年代以降、北関東の本県においては暖地性の越冬トンボであるホソミオツネイトンボの北上に伴う生息地の拡大によってか、本種の

生息域は全県的に縮小してしまった。亀谷地湿原、岡見湿原共にホソミオツネトンボと共存していたかに見えたが、現在は亀谷地では本種、岡見ではホソミオツネトンボが見られ、越年性トンボは単一種のみが見られるようになった。滝の倉湿原においては夏を越した未熟な成虫を林縁で記録しただけで、越冬生態や春の出現期の行動等は観察していない。池沼性の幼虫であり、高地の記録としては阿武隈山地の生息地としては最高地点と見ている。

(5) アオイトトンボ *Lestes sponsa*

Aug 2. 2002 2 ♀

体長 40 mm, 後翅長 42 mm, 7月中旬に浅い止水域で羽化し、すぐさま湿原から周辺の森林に移動して摂食、成熟を待ち、夏期, 8月, 夏草の繁茂する水辺に戻る。アオイトトンボ科の代表種で成熟すると雄は体に白い粉を付けるが、雌は目立たない。雌雄連結して水辺の植物の組織内に産卵する。関東地方以北の山地の池沼に広く分布するが、関東以南では低地にも出現する。

カワトンボ科 CALOPTERYGIDAE

(6) ヒガシカワトンボ *Mnais pruinosa costalis* (図6)

Jul 22. 2001 3 ♂ 1 ♀, Aug 1. 2002 4 ♂

体長 47 ~ 49 mm, 後翅長 33 ~ 36 mm, カワトンボ科の代表種であるが、阿武隈山地ばかりか、県内、全ての既知の生息地で個体数の減少傾向を示している。滝の倉湿原においては、西南の周縁部を流れる滝の倉川支流の流れは清澄、底は砂泥質、岸辺にシダ類、カヤツリグサ類。距離にして、100 m, 川幅 1 m の流路は曲折し、川底に潜む幼虫の観察は可能である。成虫は、阿武隈山地の南部、日立市小木津山における羽化時期より2ヶ月ほど遅れて6月下旬に羽化し、9月上



図6. ヒガシカワトンボの雄。2001年7月22日撮影。

旬に没姿する。雄は全て透明翅型で、体型は平地産の個体に比していくぶんか小型である。阿武隈山地の生息地では標高 700 m のこの流域が生息高度の限界値であろう。

ムカシトンボ科 EPIOPHLEBIIDAE

(7) ムカシトンボ *Epiophlebia superstes*

May 14. 201 1 ♂, Apr 22. 2002 1 ♂, Jun 22. 2002 1 ♀

体長 48 ~ 52 mm, 後翅長 29 ~ 31 mm, 幼虫は湿原からの水量を集めて流れる溪流の源流域の川底の落枝や落葉、石の下などに生息する。幼虫期間は長く6 ~ 8年であろうと推定されているが、本県での正確な期間は明らかでない。東茨城郡御前山付近より遅れること1ヶ月、5月中旬に羽化し、6月下旬には姿を消す。通常、湿原上に飛来することなく、日中、湿原周辺の森林の下、薄暗い流れの周辺を低く飛ぶ。時には湿原周辺の林道上を高く飛び、複数個体が活発な摂食行動を見せる。滝の倉川では標高 400 m 辺りの流域でも相当数の個体の観察は可能である。

サナエトンボ科 GOMPHIDAE

(8) モイワサナエ *Davidius moiwanus moiwanus* (図7)

May 14. 2001 1 ♂, Jun 22. 2002 1 ♂

体長 39 ~ 42 mm, 後翅長 24 ~ 25 mm, 小型な *Davidius* 属の溪流性の種で、梅雨期、湿原周縁部の林のリョウブ等の葉に静止している未熟個体が見付かる。幼虫は溪流に生息し、成虫は羽化後、湿原を取り巻く林内で成熟を待つが、時には湿原にも飛来する。湿原内の細流が水量豊富であった1973年5月6日の記録では、羽化直後の雄を湿原に立つヤマハンノキの葉で見ているので、そうした流域の生息もあろう。北方系の種で、東北地方、北海道に分布、茨城県では北部山地のみに生息し、高萩市、里美村、大子町を結ぶ



図7. 20年前, 1983年5月22日撮影のモイワサナエ雄。

地域は分布の南限帯に当る。

(9) ダビドサナエ *Davidius nanus*

Apr 22.2001 2 ♂ 1 ♀

体長 41 ~ 44 mm, 後翅長 23 ~ 25 mm, 本県では低地から山地に掛けて河川の上流域に生息する溪流性の種で, この属の中では個体数は多い。滝の倉湿原周辺の溪流では5月下旬から羽化が始まり, 未熟個体は雌雄とも流れ附近の石の上や周辺の植物体に静止しており, 風やその他の刺激で飛翔して存在が明らかになる。成熟した成虫は流れ付近で, 流れの一部分を占有する習性があるが, 日中, 良く飛翔するが, 雌にはそうした行動は見られない。Davidius 属では最も遅く, 通常7月上旬まで見られる。

(10) クロサナエ *Davidius fujiama*

May 14. 2001 1 ♂

体長 39 ~ 42 mm, 後翅長 22 ~ 23 mm, 山間の溪流の源流域に生息し, 幼虫は河床の砂や小石の下に潜む。5月下旬に羽化直後の個体を湿原の周辺の林で見ると, 数時間後には流れから離れ林間で暮し, 時には林道や湿原内の裸地に静止している。成熟すると流れに戻り, ムカシトンボと生息場所を同じにする。この属のトンボは同一場所に多産することはなく, 湿原一帯で1日に観察できた個体数は皆一桁で少ないが, ダビドサナエ, クロサナエ, モイワサナエの順になった。

(11) ヒメクロサナエ *Lanthus fujiacus*

Jun 22.2002 1 ♂

体長 42 ~ 45 mm, 後翅長 28 ~ 29 mm, 河川の源流域からそれに続く流れ周辺に見られるサナエトンボの1種で形態的にダビドサナエ属に類似するが胸側の黒条の形で容易に区別できる。5月下旬から7月上旬まで湿原を囲む森林内, 薄暗い溪流付近の樹木の小枝や葉の上に静止しているが, 時には太陽の当る流れの中ほどに突き出た岩石上にも見られる。個体数は多くなく1日に1~3頭を数えるくらいで, 配偶行動や産卵行動は観察していない。

滝の倉湿原で観察記録できたサナエトンボ科の4種は全て我が国固有種であって, 山地溪流性, 年1回, 梅雨期前後に発生する小型種である。過去, ヒメサナエを除いては亀谷地湿原や岡見湿原にも生息し, 滝の倉湿原では未発見のミヤマサナエ初め4種が梅雨期を挟んで発生し, 山間の源流域でムカシトンボと共にその姿を見せていた。こうした固有種の減少の原因の一つ

は, 湿原周辺の森林の皆伐ばかりか森林経営状態が悪化し, 手入れがよくなく荒れ果てた林床が生じた結果として源流域の乾燥化が流れ全体の流量の減少をもたらした。成長に従って瀬を流下し, 淵に滞在して捕食を繰り返すであろうサナエトンボ類幼虫の生活様式を完成させなくなってしまったようだ。

ヤンマ科 AESCHNIDAE

(12) ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* (図8)

Oct 6. 2002 2 ♂ 1 ♀

体長 74 ~ 76 mm, 後翅長 51 ~ 55 mm, 胸部に続く腹部が著しくくびれ, 体型が細型のヤンマである。茨城県では晩夏から晩秋まで森林が発達している低山地から標高 800 m を超す山地まで広く山間の流れ周辺に発生する。滝の倉湿原においては, 日中は薄暗い流れの周辺を低く飛んだりするが, すぐに小枝等に静止したりして目立たないが, 夕刻, 地上 5 m ほどの空間を旋回飛翔したりする。秋期には成熟し森林内で暮す。雌は流れの上に倒れ水中に浸る朽ちた樹木の表皮等に単独で産卵する。幼虫は1年中, 成長が各段階の個体が同所から見出されることもある。本種も日本特産種である。



図8. ミルンヤンマの羽化殻。2001年8月1日撮影。

(13) ルリボシヤンマ *Aeschna juncea*

Aug 1. 2002 2 ♂

体長 82 ~ 84 mm, 後翅長 53 ~ 54 mm, 最終氷期の後の温暖化によって山間の高地の湿原に残された北方系のヤンマの1種。幼虫は湿原内に生じた浅い池や水溜りに生息し, 成虫は7月下旬に羽化後, 付近の林内に移動し, ミズナラ等の小枝や葉に静止していることが多い。日中, 周辺を飛ぶ小型昆虫類を摂食, 9月上旬, 成熟後は, 湿原に戻り, 雄は低空飛翔を続け, 雌を求める。交尾後, 雌は湿地や岸辺の軟弱な土, またはコケ類, 水中の植物組織内に産卵する。茨城県では

近似種のおオルリボシヤンマよりは記録地が少なく、高標高の湿原等に見られる。

オニヤンマ科 CURDULEGASTERIDAE

(14) オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (図9)

Jul 22. 2001 2 ♂ Aug 1. 2002 1 ♂ 2 ♀

体長 98 ~ 110 mm, 後翅長 55 ~ 58 mm, 我が国産のトンボでは最大級の種。特に雌は大型で腹部は肥大する。雌の四翅の基部が黄色化する個体もある。2001年には、7月中旬に羽化直後、流れから林内に移動の姿を見たが、日立市等の平地よりは1ヶ月の遅れである。8月下旬には姿を消してしまう。調査地では、主として湿原に至る峠の林道上を往復飛翔して活発に摂食するが、時には湿原上を低く飛ぶ。交尾は晴れた日の午前中、樹上で行われる。その後、雌は単独で、体を水面に垂直に立てる特異な姿勢で砂泥質の浅い川底に腹部先端部を突き刺すようにして産卵を繰り返す。幼虫は1年中、成長の各段階のものが川底の砂の中から見出される。阿武隈山地に広く生息し、周知の大型トンボの代表である。



図9. オニヤンマの羽化殻。2001年8月1日撮影。

エゾトンボ科 CORDULIIDAE

(15) オオエゾトンボ

Somatochlora viridiaenea atrovirens (図10)

Jul 22. 2001 1 ♂ 1 ♀

体長 58 ~ 63 mm, 後翅長 41 ~ 43 mm, 濃い金緑色の地肌に黄色の帯が入る色彩が美しい中型トンボで、雌雄とも7月上旬から8月下旬まで湿原を囲む森林内を流れる河川周辺を飛ぶ。林内で5m位の空間を舞い



図10. 羽化直後のオオエゾトンボの雌。2001年7月22日撮影。

ながら摂食する。晩夏、成熟した雌雄は明るい湿原の流れ周辺の草地付近に戻り、交尾。雌は浅い水面を腹部先端で打ちつけるようにして産卵する。成熟前の幼虫は水草の間に潜み発見は至難である。羽化は早朝、日の出前後、風の静かな時間帯に行われる。茨城県の低地では同属のハネピロエゾトンボと混生した場所もあったが、現在、本種は八溝山系や阿武隈山地では、より高度な湿原周辺で記録されている。1970年代、亀谷地湿原、岡見湿原、共にエゾトンボ属の安定した生息地として注目されたが、環境変化で姿は消えた。瀧の倉湿原周辺の記録はいつまで続くであろうか。

トンボ科 LIBELLULIDAE

(16) シオカラトンボ *Orthetrum albigyllum speciosum*

Jul 22. 2001 2 ♂, Aug 1. 2002 3 ♂ 1 ♀

体長 55 ~ 57 mm, 後翅長 37 ~ 39 mm, 中型のトンボで、日立市等の平地では年2回の発生を見るが、瀧の倉湿原では年1回のように7・8月以外には成虫を見ていない。羽化後、未熟な成虫は直ちに周辺の林内に移動し、湿原に戻るの凡そ1ヶ月経った成熟後である。本県においては低地の温暖な池沼から山間の湿原にある厳冬期は凍結する浅い水溜りにまで、高度差にして700mもある水系に安定した生息状況を見せるトンボの種数は少なく、本種はその代表種である。どうした生存の戦略がそうした生態を見せるのか、普通種であっても解明されていない。

(17) シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum*

Jun 22. 2002 1 ♂ 1 ♀

体長 41 ~ 41 mm, 後翅長 30 ~ 32 mm, 腹部が大きく短かで、未熟時、雌雄共にムギワラトンボ型の色彩を示す。シオカラトンボ属にあってはやや小型の種だ。

北関東においては、1980年代までは普通種であったが、近年、急速に姿を減じてしまった。低地においては春4月下旬から6月中旬まで見られる湿地性のトンボである。県内では、高地の記録になるであろう滝の倉湿原では出現が遅く、7月になって未熟な個体を草地や周辺の林道上で見ると、個体数は少なく、幼虫は見えていない。

(18) オオシオカラトンボ

Orhtetrum triangulare melania

Jul 22. 2001 1 ♀, Jun 22. 2002 1 ♂

体長 56 ~ 59 mm, 後翅長 40 ~ 44 mm, シオカラトンボ属にあっては大型種。県内、広く低地から山間の湿原の細流、水田とその用水路、池沼、溝等に生息し、幾分か腐水であっても生活史を完成させる。羽化後、未熟な個体は湿原から離れ、林内で暮し、成熟後は湿原内の木立、ヤマハンノキやアカマツの枝に静止して、縄張りを形成する。交尾後、湿原にできた開放的な水面に雌単独で産卵を続け、雄はその上空にあって産卵を警護する。

(19) ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* (図 11)

Jul 22. 2001 11 ♂ 1 ♀, Jun 22. 2002 2 ♂, Aug 1. 2002 4 ♂

体長 17 ~ 19 mm, 後翅長 14 ~ 16 mm, 世界最小型種の一つ。我が国においてはトンボ科の種では最小である。体の地色は、雄では成熟するにつれて橙黄色から前胸部の一部を黒く残して全体が赤化し、雌は淡黄



図 11. 成熟したハッチョウトンボの雄。2002年6月22日撮影。

色で、腹部に明瞭な縞模様がある。茨城県では、一般的には、5月下旬から羽化が見られ、8月まで姿を見せる。本県の生息環境は、低地から山地に掛けて太陽の直射する亀谷地のようなミズゴケ湿原を典型としながらも、友部丘陵周辺のように湧水によって生じた小面積の湿地、水戸市周辺に残るため池を伴う草丈の低い湿原の水溜り、筑波山麓の休耕田や数年放棄された水田の水溜り、笠間市から真壁町・つくば市に掛けての採石場跡にできた浅い水溜り、それに、東海村に見る海浜近くの湧水を伴う細流の岸の湿地等、多様な水環境下に本種は生息していた。このように、生息環境に安定した水の補給があった各地、県中部から県北部の各地では生息が確認できたが、ここ30年間、人為的な生息地の水環境の変化によって生息地の多くが失われてしまった。阿武隈山地においても湿原の乾燥化の進捗によって亀谷地湿原、岡見湿原とともに、本種は絶滅寸前である(図 14)。現在、安定した生息環境が保証されている滝の倉湿原においてはトンボ目昆虫の代表種であり、6月上旬から湿地性植物ミツガシワの蔭を軽快に飛翔したり、サギソウの細い葉先に止っている。

(20) ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (図 12)

Jul 22. 2001 4 ♂ 1 ♀, Sep 25. 2001 1 ♂ 1 ♀, Aug 1. 2002 2 ♂ 1 ♀

体長 36 ~ 39 mm, 後翅長 28 ~ 29 mm, 中型のアカネ属のトンボで、7月から9月まで湿原に見られるが、この地は幼虫の生息環境ではなく、夏期、草原で他のアカネ属トンボと共に摂食活動で過ごし、成熟を待つ。秋、山麓等の低地に戻る種であろう。草地よりは樹木の蔭など半日陰の部分に多く見られ、湿原では成熟して、全身が真っ赤になった個体を見ていない。



図 12. ナツアカネの雄。2001年9月25日撮影。

(21) アキアカネ *Sympetrum frequens*

Jul 21. 2001 2 ♂ 3 ♀, Sep 25. 2001 7 ♂ 9 ♀, Nov 23. 2001 1 ♂, Aug 1. 2002 6 ♂ 5 ♀, Oct 6. 2002 2 ♂ 5 ♀

体長 38 ~ 41 mm, 後翅長 25 ~ 28 mm, 中型のアカネ属トンボの代表種。県内では最も普通に見られる種である。滝の倉湿原で記録できた成虫は全て羽化後、数日かそれ以上経過し、橙色の体全体は強固になってはいるが性的には未熟個体であった。調査期間中、晴れた夏の日には、午前中は湿原の植物体上に静止しているが、正午前後に飛翔を始め、湿原の 4 m ほど上空を群れて飛ぶが、午後 3 時過ぎには、また、低空を飛び、夕闇の時刻に湿原の植物体に止る。2001 年 11 月、残存する個体を見た。これらの個体が、通説のように、山麓の水田、池沼等の止水系から森林を上り最高地点の湿原まで往復するという生態に関しては確認できていない。ただ、山に上っても山麓に下れない個体があることなどは阿武隈山地の湿地等で何例も見ている。季節的な移動をしない本種がいるかどうか、それに山上の池や水溜りに産卵、翌年、次世代の発生は予想できるだろうが、実証されていない。これらは普通種であっても未解決の生態上の問題であろう。

(22) ヒメアカネ *Sympetrum parvulum*

Sep 25. 2001 2 ♂ 1 ♀

体長 32 ~ 34 mm, 後翅長 24 ~ 25 mm, アカネ属トンボにあっては小型種である。滝の倉湿原の最南部で秋季にのみ成熟個体を見たが、その後の生態的な観察知見はない。亀谷地湿原、岡見湿原からも記録はなかった。茨城県では県中部から県北部に掛けて低山地の明るい湿原各所に生息が記録されている。日立市小木津山の観察例では、羽化後、その水辺から離れて湿原や林間の草地に移動、そこで暮し 8 月下旬の成熟を待つ。

(23) マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum*

Oct 6. 2001 1 ♂ 1 ♀

体長 35 ~ 38 mm, 後翅長 27 ~ 29 mm, 成熟すると雄の体色は赤化するが、雌は橙色のままである。真正面から見ると、雌雄ともに頭部に眉斑がある。雌の翅端部に黒褐色斑のあるものと付けないものがあるが、滝の倉湿原では有斑であった。やや薄暗い林縁のコアジサイの小枝や草の上に止る習性がある。幼虫は止水にも緩やかな流れにも生活でき、水底に潜む。茨城県では産地の記録数が減少気味である。

(24) ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum*

Jul 22. 2001 5 ♂ 5 ♀, Sep 25. 2001 8 ♂ 7 ♀, Aug 1. 2002 4 ♂ 4 ♀, Oct 6. 2002 3 ♂ 4 ♀

体長 43 ~ 47 mm, 後翅長 32 ~ 34 mm, 翅端に黒褐色の斑紋がある。アカネ属にあっては大型種。本県では、1970 年代後半から急速に数を増し、個体数の増加は山間部から低地、市街地にまでに向かって。現在、低地、山地を問わず、夏から秋に掛けて通称赤トンボは本種を指すようである。ノシメとは、アカネの翅端の紋様を縞と見立てた者がいた。それは、武士の衣服に用いた生地は無地であったが、袖、腰の辺りだけに縞模様があった。その衣服の縞模様をアカネの翅に見ての命名であろう。

(25) ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum*

Jul 21. 2001 1 ♀

体長 43 mm, 後翅長 35 mm, 翅基部は広く橙黄色で胸側には明瞭な黒条がある。太平洋岸では福島県以西に分布し、茨城県は分布の東北限帯に位置する。過去に記録は、水戸市全隈町の溜め池、久慈郡大子町久慈川沿岸の河跡沼、貝沼の 2 産地のみであった。丘陵地帯で樹木の多い池沼に見られるが、水戸市の例は開放的な水面上を縄張り飛翔などをしていて発見できた。7 月下旬に羽化し、水域から離れ、前生殖期は短く、8 月中旬には成熟する。幼虫で越冬は文献上分かっているが、本県での確認はない。成虫が低地から山間部へ移動するかどうか、今後の課題となろう。既知の産地では、年によって発生数に変動があり、突然、姿を消してしまった例もある。他のアカネ属の数種に混じって確認できた滝の倉湿原の個体は本県における最北、最高地点での記録となる。

(26) ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (図 13)

Sep 25. 2001 2 ♂

体長 48 ~ 49 mm, 後翅長 40 ~ 41 mm, 翅の面積が大きく、体色橙黄の普通種で、毎年、南方から渡来する。茨城県の低地では 6 月中下旬に姿を見せ(第 1 世代)、池沼、水田、学校のプール等に産卵。卵期間は 1 週間と短く、幼虫期間も 5 週間程度で 8 月中旬には第 2 世代のトンボが水田上や海岸線などを群れて飛ぶ。これらは北上し東北地方にまで移動するようだが、その片道の渡りの生態は明らかにされていない。第 2 世代からの第 3 世代は少数ではあるが、例年、10 月中下旬に羽化する。しかしながら、夏期、阿武隈山地で観察できる個体が何世代のものかの判定は困難である。



図 13. ウスバキトンボ。2002年 8月 1日撮影。

亀谷地湿原や岡見湿原でも記録があり、今回の滝の倉湿原の記録は長距離移動中の個体が山中の湿原に飛来した一時的な生活者と見てはどうかであろう。

考 察

阿武隈山地内の湿原、亀谷地湿原、岡見湿原を取り巻く森林環境、水環境ともに大きく変動した。1975年までに亀谷地湿原、岡見湿原ともに周辺のスギ・ヒノキ林は皆伐された。亀谷地湿原においてはミズゴケ類が繁茂していた湿原を二分する林道が走り、岡見湿原は周辺の森林伐採に伴い湿原は乾燥化した。両湿原ともに、乾燥化が進み、ヨシ・ガマ類やハンノキ類、ヤナギ類、マツ類等の若木の侵入が目立つ。こうした開放水面の面積減少はヤンマ類の幼虫の生息域を減少させた。わずかに残る湿原内の浅い水溜りにはイトトンボ類や小型のトンボ類の生息環境となったが、そうした水域も乾燥化の進行で湿原には少数残るだけになってしまった。

他の湿原や水田とは隔離されている亀谷地湿原では、低地などからのトンボ類の渡来は見られなかった。ただ、湿原の周辺を流れる渓流域に暮すムカシトンボやサナエトンボ科の数種は、湿原の周辺の森林で餌を摂り成熟まで生活し、時には湿原を低く飛んだ。こうした湿原の乾燥化への遷移を想定する時、亀谷地湿原においては総数種は大きく減少したが、湿原の上部の湧水源の存在がオゼイトトンボ、ルリボシヤンマ、オニヤンマ、ハッチョウトンボといったこの地を代表する種を残していた。しかし、流水量の減少はカワトンボ科、サナエトンボ科のトンボの生存を不可能にした。

岡見湿原では、大型植物の侵入による群落の出現で水域面積は狭少化し、亀谷地湿原に残ったオゼイトトンボ、ハッチョウトンボといった種すら見ることもな

く、夏から秋に掛けて周辺の水田や河川からの侵入種であろうトンボ科アカトンボ属の多くの個体をみる。

亀谷地湿原と岡見湿原の環境変化を考慮しながら滝の倉湿原の現状を見る。

この湿原においても、開放水面の面積の縮小、湿地性植物の水域内への侵入、細流の水量減少、数種の樹木の侵入等で、亀谷地湿原、岡見湿原同様にトンボ相の貧弱化を招く恐れがある。

湿原内に各種の湿地性植物の繁茂は、訪花性昆虫にとっては貴重な蜜源となり、花上にチョウ・ハチ・アブ・ハエ・ガガンボ・甲虫類と多くの昆虫類を観察できる。このことは肉食性であるトンボ類にとっても食糧資源の保証であり、湿原に侵入してきた各種の動物の生存を保証する。特徴的な事項は、トンボ類において、随時、この湿原に侵入する中型または大型種ばかりか、湿原を囲むように流れる滝の倉川支流は溪流としての河川形状を変えておらず、その流域で羽化したカワトンボ科、ムカシトンボ科、サナエトンボ科、エゾトンボ科の全ての種にとってこの湿原は成熟までの摂食の地となっている。

ここで茨城県におけるオゼイトトンボとハッチョウトンボの分布記録地を見てみる(図 14)。

ハッチョウトンボの生息地の報告は本県産トンボ類のなかにあって最古の記録であり、1910年夏に現在の日立市久慈浜北方、森山町甕の原辺りで舟橋衡氏が記録した。その後、25年経って、福田敏夫氏が岩瀬と友部の産地を報じている。1950年代には当時、茨城大学生であった水戸市の飯村靖夫氏の友部町を中心にした県央部の調査で、いくつもの産地が明らかになり、それらを基にした県全体の廣瀬の調査は現在も進行中である。

オゼイトトンボは1972年夏、廣瀬の初記録は亀谷地湿原、次いで岡見湿原で採集した。県内では高標高地ばかりか筑波山塊の東方の台地、水戸市周辺の低地からも記録され、ひたちなか市沢田の湧水が流れる湿原内の小さな池にもその姿を見ている。そうした資料を並べてみると、ハッチョウトンボの生息地にはオゼイトトンボが、出現時期は若干早いがおおよそ同時期に出現する。県内の2種の記録地を並べてみると、オゼイトトンボの記録地数は21、ハッチョウトンボのそれは64であり、2種が同時に観察できた場所は18箇所になる。オゼイトトンボの記録地は標高740mから下って海辺近い標高10m程の地まで広域に記録されている。ハッチョウトンボの場合は、標高400m以上の山間の湿地と200m以下の原野の湿地に分けることがで

きる (図 14).

山地性のトンボにもかかわらず低地にも見られ、しかもその生息地は安定、個体数が豊富である、という本県の動物相の特徴の一つを示す具体例としても、このトンボ2種が生息する湿地、湿原と呼ばれる水環境は貴重となる。

謝辞

本調査報告を行うに当り、北茨城市華川町在住の滑川敏行氏(当時、北茨城市立関本第一小学校長、現在、

同精華小学校長)には、調査の主力地滝の倉湿原の自然情報の連絡を戴き、調査の全日程において現地を案内され得難い生物情報の提供を受けた。記して心から感謝の意を表する。

調査研究および執筆

廣瀬 誠

引用文献

広瀬 誠. 1953. 茨城県産トンボ誌第3報. 茨城博物

- 1 久慈郡大子町北吉沢 (140 m) 土▲
- 2 大子町町付 (160) 土▲
- 3 大子町池田 (140) 土▲
- 4 大子町小生瀬 (260) 土▲
- 5 大子町野ヶ淵 (120) ? ▼
- 6 里美村岡見 (700) 土◇
- 7 里美村笠石 (520) 土▲
- 8 北茨城市関本町定波 (550) 土▲
- 9 北茨城市関本町小川 土▲
- 10 北茨城市関本町亀谷地 (740) 土◇
- 11 北茨城市中郷町 十石堀 土▲
- 12 高萩市柳沢 (700) 土▲
- 13 高萩市大金田 (520) 土▲
- 14 高萩市大荷田 (620) 土▲
- 15 高萩市上君田 (700) 土◇
- 16 高萩市大能 (340) 土▲
- 17 高萩市文添 (480) 土▲
- 18 高萩市赤浜 土▲
- 19 日立市小木津町 (60) 土◇
- 20 日立市石名坂 土▲
- 21 ひたちなか市沢田 (10) 土◇
- 22 那珂郡東海村延延 (10) 土▲
- 23 那珂郡那珂町大内 土▲
- 24 水戸市上国井 土▲
- 25 水戸市下国井 土▲
- 26 水戸市田谷 土◇
- 27 水戸市田野町 土◇
- 28 水戸市千波 土▲
- 29 水戸市見川 土▲
- 30 水戸市平須 土▲
- 31 水戸市笠場 土▲
- 32 東茨城郡桂村錫高野 (100) 土▲
- 33 東茨城郡常北町小松 土▲
- 34 常北町石塚 土▲
- 35 内原町五平 土▲
- 36 内原町三野輪 土▲
- 37 内原町滝瀬 土▲
- 38 美野里町先後 土▲
- 39 美野里町三箇 土▲
- 40 笠間市佐白山 土▲
- 41 笠間市福田 土◇
- 42 笠間市稲田 土◇
- 43 笠間市飯田 土◇
- 44 西茨城郡七会村仏国寺 土▲
- 45 七会村塩子 (100) 土▲
- 46 七会村上徳蔵 (130) 土◇
- 47 七会村大綱 土▲
- 48 七会村真端 (180) 土▲
- 49 岩瀬町長方 土▲
- 50 岩瀬町山口 (70) 土◇
- 51 友部町南友部 土▲
- 52 友部町下市原 土▲
- 53 友部町鯉瀬 土◇
- 54 友部町大古山 土◇
- 55 岩間町安居 土◇
- 56 岩間町押辺 土◇
- 57 岩間町市野谷 土▲
- 58 真壁郡大和村大池 土▲
- 59 真壁町白井 (100) 土▲
- 60 真壁町桜井 (100) 土▲
- 61 真壁町田 (40) 土▲
- 62 真壁町山尾 (320) 土▲
- 63 新治郡八郷町大増 (220) 土▲
- 64 八郷町野田 (60) 土◇
- 65 八郷町吉生 土◇
- 66 新治村本郷 (49) 土▲
- 67 御前山村上伊勢加 土▲

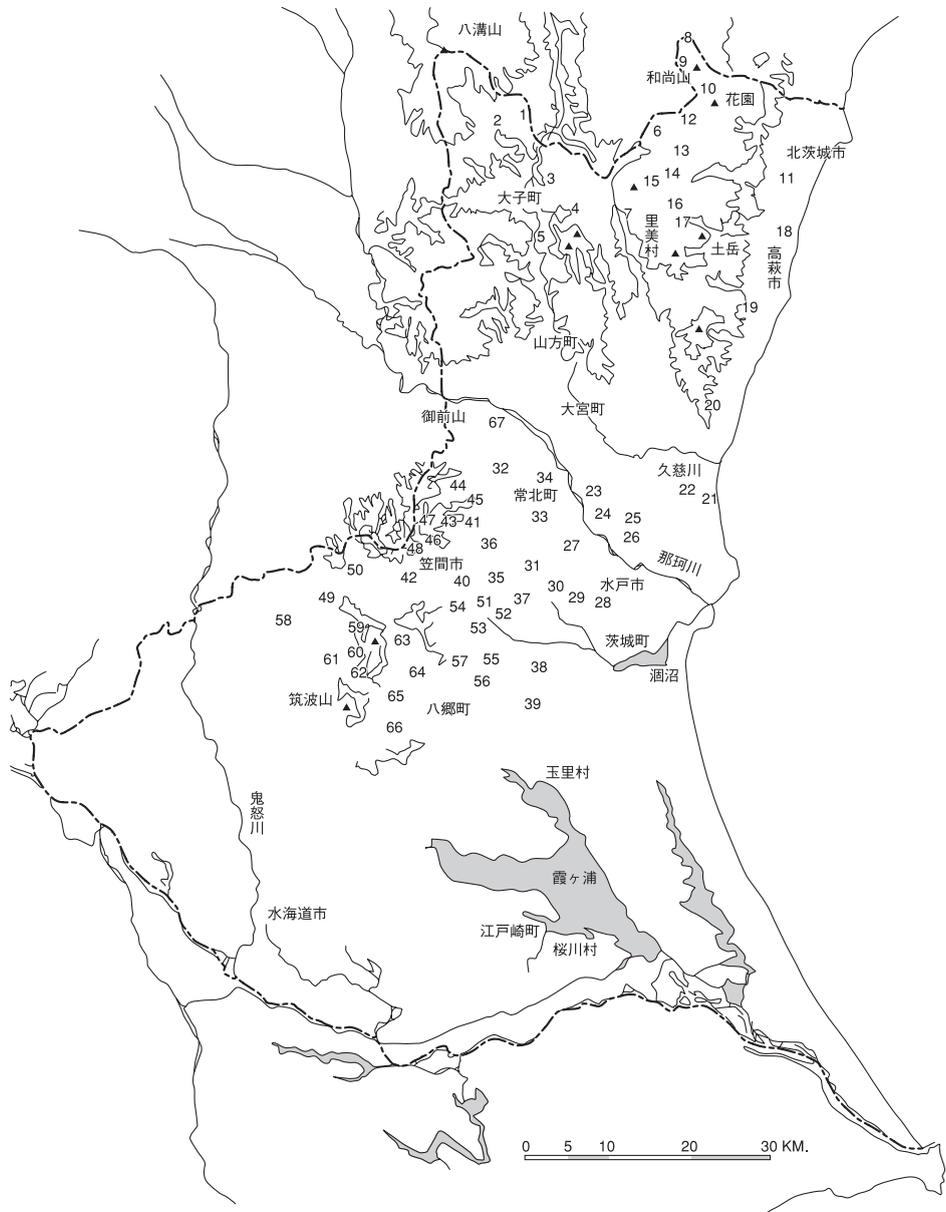


図 14. 茨城県におけるオゼイトトンボとハッチョウトンボの分布記録地 (廣瀬 原図).

凡例 (記載順): 分布地番号. 分布市町村名 (町名, 大字, 代表的な地名等).
 () 内 標高 m. 生息地環境状況 記号 + 良, 土不良, - 破壊, ? 不明.
 分布種 ▲ハッチョウトンボ, ▼オゼイトトンボ, ◇2種混生.

動 物

- 同好会 会誌 (16) : 23-36.
- 広瀬 誠. 1971. 茨城のトンボ. おけら (茨城昆虫同好会), (40) : 79-99.
- 広瀬 誠. 1973a. 茨城のムカシトンボ 第2報. 虫の国, 9 (4) : 14-16.
- 広瀬 誠. 1973b. 茨城のムカシトンボ 第3報. 虫の国, 9 (5) : 25-27.
- 沼田 稔・倉島一也・成田行弘・渡辺 健・川俣静夫. 1974. 茨城県北部のトンボ. 瑠璃星 (水戸昆虫研究会), 2 (1・2) : 28-41.
- 高萩市. 1976. 高萩の植物.
- 日置正義・広瀬 誠. 1977. 茨城の昆虫界. 瑠璃星, 5 (2) : 95-114.
- 大津直光. 1980. 自然の保護と高萩の植物.
- 茨城県環境局. 1985. 茨城の特定動植物の分布 (昭和58・59年).
- 高萩市教育委員会. 1987. 君田の自然.
- 高萩市. 1991. 高萩の動物.
- ふるさとといばらきの山編集. 1991. ふるさとといばらきの山. 茨城新聞社.
- 山本哲也. 1991. 山田川 (久慈川支川) に生息するトンボ目幼虫とそれらの指標性. 茨城県公害技術研究所報告書, (3) : 53-59.
- 里美村教育委員会. 1993. 里美の自然.
- 茨城生物の会. 1994. 茨城県の絶滅が危惧される動植物の生息・生育現況の調査報告書.
- 茨城県生活環境部. 1995. 茨城県の特定動植物の分布 - 動物編 -.
- 茨城県. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>茨城県版レッドデータブック.
- 茨城県. 2000. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<動物編>茨城県版レッドデータブック.
- 浜島繁隆・土山ふみ・近藤繁生・益田芳樹. 2001. ため池の自然 - 生き物たちと風景 -. 信山社サイデック.

茨城県北東地域のチョウ

はじめに

調査地域である茨城県北東地域は、図1に示したように、福島県境北茨城市平潟港－日立市久慈川河口－常陸太田市里川・久慈川合流点－福島県境里美村明神峠を結ぶ1,800平方キロメートルに及ぶ面積を持つ広大な地域である。

与えられた3年間（2000年～2002年）の調査だけで、そこに生息するチョウの全容を知ることは不可能に近い。よって、執筆者の過去の調査記録1) 2)といくつかの文献も取り入れてこの報告を作成した。

- 1) 塩田 正寛 (2002) 茨城県蝶類誌 (1) 茨城県蝶類調査会
- 2) 塩田 正寛 (2002) 茨城県蝶類誌 (2) 茨城県蝶類調査会

使用用語

文中に使用した用語は下記のような内容である。

1) 地形

- 低地：標高100 m以下の平坦地。
- 低一山地：標高100 m～400 mの山地と里川添いの標高100 m以上の平坦地。
- 中一山地：標高400 m～1,000 mの山地。調査地域の最高地点は標高881 m（栄蔵室）。
- 高一山地：標高1,000 m～亜高山帯までの山地。調査地域には存在しない。
- 山地：標高100 m～800 m、低一山地と中一山地を含めたもの。

2) 植生

- 照葉樹林地域：スダジイを優占種とし、タブが混生する森林が成立する地域。標高100 m以下の地域に成立する（シラカシを含めると標高400 m、低一山地上限まで範囲が広がる）。
- 夏緑樹林地域：ブナを優占種とする森林が成立する

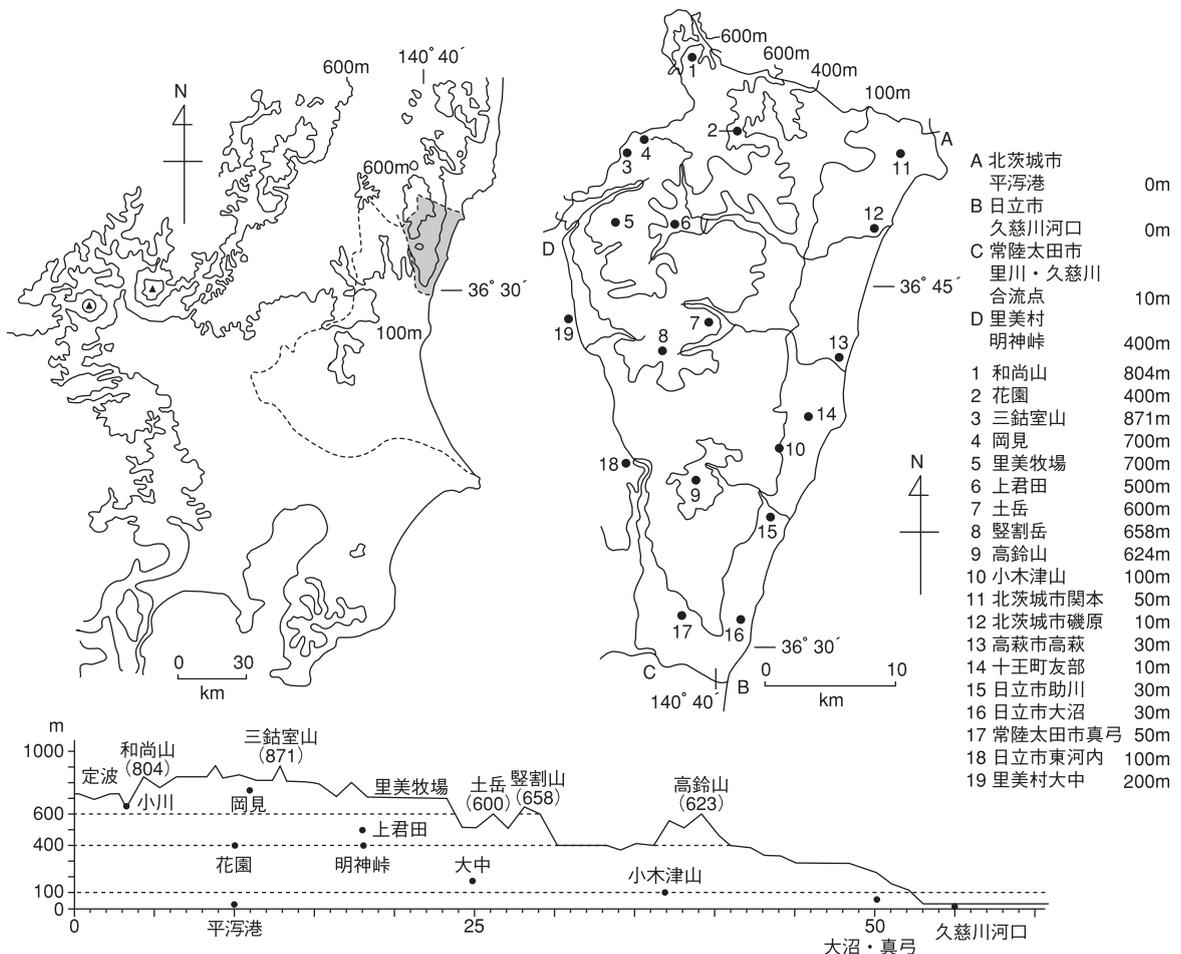


図1. 調査地域（茨城県北東部）図.

動物

地域。ミズナラを混生する林が存在する。標高600 m以上の地域に成立する。

3) 個体数

その種を観察した地点での個体数を、目安として以下のように表現した。

多産：数10個体。多い：10個体以上
中位：10～5個体。少ない：2～5個体。
希：1個体

4) 生態

土着：その地域に長年住み着いていること。

北上個体群：茨城県より温暖な地域に生息地を持ち、春～秋の高温期に茨城県で世代交代しながら北上し、低温期の冬季に全ステージが死滅する個体群(種)。

高一山地個体群：標高1,000 m～亜高山帯までの山地に生息する個体群(種)。茨城県での最高地点は1,022 mなので高一山地は存在しない。

採集記録

種別解説の中で調査期間中に採集したものを下記のように表した。

020101	日立・笹目牧場	1♂	(確認)	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

- (1) 採集年月日 2002年1月1日
- (2) 市町村名
- (3) 大字・小字・地点名：その採集地点に最も近い5万分の1の地形図の地名。
- (4) 採集した個体数と性別。
- (5) 観察による確認。

茨城県レッドデータブックカテゴリー

下記の文献によって、種別解説の中で該当する種については、そのカテゴリーを記した。

・茨城県希少野生生物(動物部門)保護対策検討委員会(2000)茨城における絶滅のおそれのある野生生物<動物編>茨城県版レッドデータブック 茨城県

標本

調査期間中の標本は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館で保管されている。

茨城県北東地域のチョウ類リスト(付表1)

学名は、環境庁自然保護局野生生物課(1995)日本野生生物目録によった。

種の配列は、科別にアイウエオ順によった。

種名の前に附された番号は、種別解説の番号に対応する。

種別解説

セセリチョウ科

1. アオバセセリ

分布

山地に広く分布する。

生息状況

渓谷や河川の林縁に生息する。

個体数は少ない～中位。中一山地に比べて低一山地に個体数が多い。

年2回の成虫出現。

採集記録

020522	高萩・内の草	1♂
020516	日立・笹目牧場	1♀
020912	里美・永戸	1♀

2. イチモンジセセリ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

人家周辺の水田や耕地に個体数が多い。

夏季に少数姿を見せ、秋季に急増し多産する。

成虫の出現は年2～3回までは確認できる。

調査地域では、北上個体群と思われる。

採集記録

000607	高萩・中戸川	1♂
020523	日立・北の沢	1♂
020911	北茨城・関本下	1♂
020919	常陸太田・長谷	1♂1♀

3. オオチャバネセセリ

分布

山地に広く分布する。

生息状況

林道の林縁や草地に生息する。

個体数は中位～多い。

年2回の成虫出現。

採集記録

000705	高萩・土岳	1♂
--------	-------	----

020612 常陸太田・真弓 1 ♂

020731 里美・生田入 1 ♂

4. キバネセセリ

分布

夏緑樹林地域に極めて局所的に分布する。1) 2)

生息状況

茨城県希少種。

林内及び林縁に生息する。

個体数は希。

年1回の成虫出現と思われる。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

文献

- 1) 高橋 潔 (1973) キバネセセリを採集する
茨城蝶類 No.2: 1~2
- 2) 井上大成 (2000) 北茨城市におけるキバネセセリ
の記録2例 りりぼし 24: 23

5. キマダラセセリ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

草地や林縁に生息する。

個体数は少ない~多い。

茨城県の暖地では年2回の成虫出現であるが、調査地域では年1回の可能性が高い。

採集記録

020723 里美・里美牧場 1 ♂

020904 常陸太田・真弓 1 ♀

6. ギンイチモンジセセリ

分布

調査地全域に分布するが、局所的である。

生息状況

森林の伐採跡地や河川敷、休耕地などの草地などに生息する。

個体数は少ない~多い。

成虫出現は年2回。

採集記録

020522 里美・苗の平 1 ♂

020703 里美・苗の平 1 ♂

7. コキマダラセセリ

分布

夏緑樹林地域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

牧場・耕地・湿地などの草地に生息する。

個体数は少ない

年1回の成虫出現。

採集記録

020725 北茨城・小川 1 ♀

8. コチャバネセセリ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

林縁やそれに接続する草地に生息する。

個体数は中位~多い。

低地では年2回、中~山地では年1回の成虫出現。

採集記録

000607 高萩・土岳 2 ♂

020506 里美・生田入 4 ♂

020616 日立・笹目牧場 1 ♀

9. スジグロチャバネセセリ

分布

中~山地に広く分布する。

生息状況

林縁の草地や溪谷の草地に生息する。

個体数は少ない~多い。

年1回の成虫出現。

採集記録

020718 里美・里美牧場 2 ♂

020808 北茨城・和尚山 3 ♂

10. ダイミョウセセリ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

林縁に生息する。

個体数は少ない~中位。

成虫出現は年2回。

採集記録

020503 常陸太田・真弓山 1 ♂

020812 日立・笹目 1 ♂

020823 里美・生田 1 ♂

動物

11. チャバネセセリ

分布

低地から低一山地に分布する。

生息状況

夏季に少数姿を見せ、秋季に個体数が増加する。
調査地域では土着できない北上個体群と考えられる。
個体数は少ない。

採集記録

020904 常陸太田・真弓 1 ♂
020911 北茨城・白場 1 ♂
020912 里美・里川宿 1 ♂
020919 常陸太田・長谷 1 ♀
020923 日立・森山 1 ♀

12. チャマダラセセリ

分布

夏緑樹林地域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。
森林伐採後の荒地・林道脇の草地・牧場の草地などに生息する。
生息地環境は不安定で、森林化すると生息しなくなる。
個体数は少ない～中位。
年2回の成虫出現。

採集記録

020429 高萩・柳沢 1 ♂

13. ヒメキマダラセセリ

分布

山地全域に分布する。

生息状況

草地に生息する。
個体数は少ない～中位。
年2回の成虫出現。

採集記録

020515 常陸太田・田渡 1 ♂
020616 日立・笹目牧場 1 ♂
020712 北茨城・小川 1 ♂ 1 ♀
020823 里美・永戸 1 ♂

14. ヘリグロチャバネセセリ

分布

現在の所、里美村里美牧場だけで記録されている。

1)

生息状況

標高 660 m の牧場脇の草地で採集された。
成虫出現は年1回と思われる。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。
1) 関根陽一(1996)茨城県におけるヘリグロチャバネセセリの記録 るりぼし 20: 73.

15. ホシチャバネセセリ

分布

中一山地に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種
林道脇や牧場などの草地に生息する。
個体数は少ない。
年1回の成虫出現。

採集記録

020725 北茨城・小川 1 ♂ 1 ♀

16. ホソバセセリ

分布

低一山地に広く分布する。中一山地では局所的になる。

生息状況

林縁の草地・林道脇の草地などに生息する。
所によっては、個体数が多い。
年1回の成虫出現。

採集記録

020731 里美・苗の平 1 ♂

17. ミヤマセセリ

分布

山地に広く分布する。

生息状況

食餌植物であるクヌギ・コナラの周辺に生息する。
個体数は中位。
年1回の成虫出現。

採集記録

020405 常陸太田・真弓 1 ♂
020408 十王・鬼越 1 ♂
020415 北茨城・富士ヶ丘 1 ♂
020506 里美・生田入 1 ♀

18. ミヤマチャバネセセリ

分布

山地に分布するが、低一山地が分布の中心と思われる。

生息状況

草地で見られるが、個体数が少なく不明な点が多い。

年2回の成虫出現。

採集記録

020429 北茨城・柳沢 1♂

アゲハチョウ科

19. アオスジアゲハ

分布

低地に広く分布する。

生息状況

タブの混生する照葉樹林の林縁や林冠に生息する。

個体数は少ない～中位。

年2回の成虫出現。

採集記録

020515 常陸太田・田渡 1♂

020820 日立・成沢 1♂1♀

20. アゲハ

分布

低地～低一山地の下部に分布する。

中一山地でも姿を見ることがあるが土着は疑わしい。

生息状況

人里の柑橘類や林縁のサンショウなどの周辺に生息する。

個体数は中位である。

年2回の成虫出現

採集記録

050503 常陸太田・真弓山 1♂

020911 北茨城・下小津田 1♀

21. オナガアゲハ

分布

山地に広く分布する。

生息状況

山地の谷間に生息する。

個体数は中位。

年2回の成虫出現であるが、第3化を見ることがある。この場合は第2化と混生する。

採集記録

020503 常陸太田・真弓山 1♂

020515 日立・東河内 1♂

020808 北茨城・花園 1♂

020823 里美・折橋 1♂

22. カラスアゲハ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

低地の林縁、山地の谷間が生息地である。

個体数は中位。

成虫の出現は年2～3回。第3化は第2化と混生する。

採集記録

020522 高萩・内の草 1♂

020720 常陸太田・真弓山 1♂

020823 里美・大中宿 1♂

23. キアゲハ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

食餌植物のセリが生育する湿地や休耕田に生息する。

個体数は中位。

年2～3回の成虫出現。第4化の可能性はある。

採集記録

020415 日立・滑川 1♂

020712 北茨城・小川 1♂

020731 里美・苗の平 1♀

020823 常陸太田・茅根 1♀

24. クロアゲハ

分布

低地～低一山地の下部に分布する。

標高の高い地域でも姿を見ることがあるが土着は疑わしい。

生息状況

人里の柑橘類や林縁のサンショウの周辺に生息する。

個体数は少ない～中位。

成虫の出現は年2回～3回。

採集記録

020515 常陸太田・田渡 1♂

020522 日立・小木津山 1♂

020911 北茨城・富士ヶ丘 1♂

動物

020912 里美・里川宿 1 ♂

25. ジャコウアゲハ

分布

低地～低一山地下部に分布。

生息状況

河川敷や林間の荒れ地に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年2回。

採集記録

020503 常陸太田・真弓 1 ♂

020731 常陸太田・町屋 1 ♂

26. モンキアゲハ

分布

低地に分布する。

山地で姿を見ることがあるが、土着は疑わしい。

生息状況

照葉樹林地域に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年2回。第3化が出現することがある。

採集記録

020515 常陸太田・田渡 1 ♂

020523 日立・北の沢 1 ♂

020530 北茨城・湯の前 1 ♀

27. ミヤマカラスアゲハ

分布

山地に分布する。

生息状況

山地の谷間に生息する。

中一山地では普遍的で、個体数は中位。低一山地では局所的になり、個体数もまれ。

成虫の出現は年2回。

採集記録

020712 北茨城・小川 1 ♀

020731 里美・生田入 1 ♂

シロチョウ科

28. エゾスジグロシロチョウ

分布

山地に分布する。

生息状況

溪谷や林道などの林縁周辺に生息する。

中一山地では普遍的で、個体数は中位であるが、低一山地では局所的で個体数は少ない～希になる。

成虫出現は年3～4回。

採集記録

020419 高萩・大金田 1 ♂

020423 里美・七反 1 ♂

020725 北茨城・小川 1 ♂

29. キチョウ

分布

調査地全域に分布。

生息状況

山地の林縁や人家の周辺などに生息する。

個体数は中位～多い。特に秋季に個体数が増加する。多産する地点も多い。

成虫の出現は年3～5回。成虫越冬する。

採集記録

010415 常陸太田・真弓 1 ♂

020415 北茨城・富士ヶ丘 1 ♀

020505 十王・小幡 1 ♂

020912 里美・永田 1 ♂ 1 ♀

30. スジグロシロチョウ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

林縁やそれに続く草地に生息する。

個体数は多い～多産。

成虫の出現は、年3～5回。

採集記録

020405 常陸太田・真弓 1 ♂

020406 日立・北の沢 1 ♂

020419 高萩・大能 1 ♂

020912 里美・三ツ目 1 ♀

31. スジボソヤマキチョウ

分布

夏緑樹林地域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

湿地や溪谷周辺に生息する。

個体数は希で、姿を見ることが困難になった。

成虫の出現は年1回。成虫越冬する

採集記録

調査期間に記録できなかった。

32. ツマキチョウ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

耕地の周辺や開けた場所の林縁に生息する。

個体数は中位。

年1回の成虫出現。

採集記録

020405	常陸太田・真弓	1♂
020405	日立・東河内	1♂
020415	高萩・秋山	1♂1♀
020419	北茨城・小川	1♂
020423	里美・苗の平	1♂

33. ツマグロキチョウ

分布

低地に分布する。

低一山地でも姿を見ることがあるが土着は疑わしい。

生息状況

カワラケツメイの生育する河川敷や休耕地、山間の
荒れ地などに生息する。

最近個体数が減少し、確実な生息地が把握できなくな
った。

成虫越冬し、春季に姿を見せる。

北上個体群と思われる。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

34. モンキチョウ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

河川敷や休耕地・牧場などの草地に生息する。

個体数は多く、特に牧場では多産する。

成虫の出現は年4回。

採集記録

020331	日立・大沼	1♂
020414	里美・折橋	1♂1♀
020415	高萩・高萩	1♂
020712	北茨城・小川	1♂1♀

35. モンシロチョウ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

人里の耕地が生息地。耕地の無い山地には生息しな
い。

個体数は、多い～多産。

成虫の出現は、年4～5回。

採集記録

020321	日立・大沼	1♂
020415	北茨城・上小津田	1♂
020601	里美・苗の平	1♂

シジミチョウ科

36. アイノミドリシジミ

分布

夏緑樹林地域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

ミズナラが混生する落葉広葉樹林に生息する。

個体数は希。

成虫の出現は、年1回。

採集記録

020712	北茨城・小川	1♂
020718	里美・三鈷室	1♂

37. アカシジミ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

コナラ林やコナラの混生する落葉広葉樹林に生息す
る。

個体数は、少ない～中位。

成虫出現は年1回。

採集記録

020604	常陸太田・真弓	1♂
020627	日立・笹目牧場	1♀
020712	北茨城・小川	1♀

38. ウスイロオナガシジミ

分布

夏緑樹林地域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

ミズナラの混生する落葉広葉樹林に生息する。

動物

個体数は希.

成虫出現は年1回.

採集記録

020723 里美・里美牧場 1♀

39. ウラキンシジミ

分布

北茨城市和尚山周辺で記録されている. 1) 2)

生息状況

種々の樹種が混生する落葉広葉樹林に生息する.

個体数は希.

成虫の出現は年1回.

採集記録

調査期間中に確認できなかった.

1) 高橋 潔 (1974) 和尚山のゼフィルス 茨城蝶類 No.8: 1~2

2) 西原幸雄 (1997) 茨城県・栃木県東部のウラキンシジミの分布について おとしぶみ 17: 1~3

40. ウラクロシジミ

分布

山地に局所的に分布する.

生息状況

種々の樹木が混生する落葉広葉樹林に生息する.

個体数は少ない.

成虫出現は年1回.

採集記録

020706 高萩・柳沢 1♂1♀

020713 北茨城・小川 1♂

41. ウラゴマダラシジミ

分布

調査地全域に分布する.

生息状況

湿地や河川沿いの林縁や沖積低地の人家の屋敷林などに生息する.

個体数は, 少ない~多い.

成虫の出現は年1回.

採集記録

020529 常陸太田・真弓 1♂

020616 日立・笹目牧場 2♂

020619 高萩・中戸川 1♂

020703 里美・苗の平 1♂

42. ウラジロミドリシジミ

分布

調査地域で現在知られているのは里美村の一カ所のみである.

日立市での記録があるので, 過去には, 山地に広く分布していたと考えられる.

生息状況

茨城県危急種.

カシワ林およびカシワの混生林に生息する.

カシワを含む落葉広葉樹林の伐採によって生息環境が破壊されて絶滅した地点が多いと考えられる.

日立市の生息地はその例である. 今後の調査によって, 生息地が発見される可能性は残されている.

個体数は少ない.

成虫の出現は年1回.

採集記録

020723 里美・里美牧場 1♀

43. ウラナミアカシジミ

分布

調査地全域に分布する.

生息状況

クヌギ林およびクヌギの混生する落葉広葉樹林に生息する.

個体数は少ない~多い. 中山地には少ない.

成虫の出現は年1回.

採集記録

020612 常陸太田・真弓 1♂

020619 十王・小幡 2♂

020627 日立・笹目牧場 1♀

020712 北茨城・小川 1♀

44. ウラナミシジミ

分布

低地~低-山地に分布する.

生息状況

夏季にも姿を見せるが局所的で, 個体数は希.

秋季になると開花中のササゲ畑に姿を見せる. 個体数は少ない~中位.

北上個体群と考えられる.

成虫の出現回数は不明.

採集記録

000805 日立・諏訪 1ex. (確認)

020904 常陸太田・真弓 4♂1♀

020911	北茨城・富士ヶ丘	1 ♂
020911	高萩・赤浜	1 ♂
020911	十王・伊師本郷	1 ♂
020912	里美・里川宿	1 ♂
020912	里美・守金	1 ♂
021024	日立・成沢	1 ♂

45. ウラミスジシジミ

分布

山地に局所的に分布する。

生息状況

コナラ林およびコナラが混生する落葉広葉樹林に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年1回。

採集記録

020712	北茨城・小川	1 ♂
020723	里美・里美牧場	1 ♂

46. エゾミドリシジミ

分布

中一山地に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

ミズナラを混生する落葉広葉樹林に生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年1回。

採集記録

020712	北茨城・小川	1 ♀
--------	--------	-----

47. オオミドリシジミ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

クヌギ・コナラの混生する落葉広葉樹林に生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年1回。

採集記録

020612	常陸太田・真弓	1 ♂
020612	日立・成沢	1 ♀

48. オナガシジミ

分布

中一山地に局所的に分布する。

生息状況

谷間に生育するクルミに生息する。

個体数は、少ない～中位。

成虫出現は年1回

採集記録

000804	里美・七反	1 ♀
020725	北茨城・小川	1 ♂

49. カラスシジミ

分布

現在知られているのは、北茨城市定波の一カ所のみ。1)

生息状況

夏緑樹林地域で記録された。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

1) Takenari INOUE and isamu OKOCHI(2000) First record *Fixsenia w-album* (Lepidoptera, Lycaenidae) from Ibaraki 蝶と蛾 51(2): 117 ~ 118

50. クロシジミ

分布

山地に極めて局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

下草の少ない土の露出する疎林に生息する。

森林化によって生息環境が失われ、生息しなくなる。

個体数は、少ない～多い。

成虫出現は年1回。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

51. クロミドリシジミ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

古いクヌギに生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年1回。

採集記録

020612	常陸太田・真弓	1 ♂
020619	十王・小幡	1 ♀
020812	日立・笹目牧場	1 ♀

動物

52. ゴイシシジミ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

ササ類の生育する林縁に生息する。

個体数は少ない～多産。

成虫出現は年3回くらいと思われる。

採集記録

011021 日立・河原子 1 ♂

020712 北茨城・小川 1 ♂

020714 常陸太田・真弓 1 ♂

53. コツバメ

分布

山地に広く分布する。

生息状況

アセビの生育する林縁に生息する。

個体数は少ない～中位。

成虫の出現は年1回。

採集記録

020405 日立・東河内 1 ♂

020417 里美・七反 1 ♂

010415 高萩・高萩 1 ♀

54. ジョウザンミドリシジミ

分布

夏緑樹林地域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

ミズナラが混生する落葉広葉樹林に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年1回。

採集記録

000705 高萩・土岳 1 ♂

000717 里美・猿喰 1 ♂

020712 北茨城・小川 1 ♂

55. スギタニルリシジミ

分布

夏緑樹林地域の一部に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

トチノキが混生する落葉広葉樹林に生息する。

個体数は少ない～多産。

成虫の出現は年1回。

採集記録

020419 北茨城・小川 1 ♂ 1 ♀

56. ツバメシジミ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

草地に生息する。

個体数は少ない～中位。

採集記録

020405 常陸太田・真弓 1 ♂

020415 北茨城・石岡 1 ♀

020506 里美・生田入 1 ♂

020522 高萩・上君田 1 ♀

57. トラフシジミ

分布

山地に広く分布する。

生息状況

山地の林縁に生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年2回。

採集記録

020515 常陸太田・真弓 1 ♂

020522 高萩・上君田 1 ♂

020712 北茨城・小川 1 ♂

020718 里美・三銚室 1 ♂

58. ハヤシミドリシジミ

分布

現在知られているのは里美村一カ所のみ。

生息状況

茨城県危急種。

カシワ林またはカシワの混生林に生息する。

カシワは山地に広く分布していたが伐採が進み希少になった。

最近個体数が急減し、絶滅が心配されている。

成虫の出現は年1回。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

59. ヒメシジミ

分布

夏緑樹林地域に、局所的に分布する。

- 生息状況
茨城県希少種。
牧場や耕地周辺の草地・伐採跡地の草地に生息する。
個体数は少ない～中位。
成虫の出現は年1回。
- 採集記録
020718 里美・岡見 1♂1♀
60. フジミドリシジミ
中～山地に局所的に分布する。1)
- 生息状況
茨城県希少種
ブナ林やイヌブナの混生林に生息する。
個体数は、希～少ない。
成虫の出現は年1回。
- 採集記録
調査期間中に確認できなかった。
1) 佐藤友良(1973)フジミドリシジミを採集する
茨城蝶類 No. 1: 1
61. ベニシジミ
分布
調査地全域に広く分布する。
- 生息状況
河川敷の草地や堤防・耕地の周辺・牧場などの草地
に生息する。
個体数は、中位～多産。
成虫の出現は、年3～5回。
- 採集記録
020331 日立・大沼 1♂
020406 常陸太田・土木内 25exs. (確認)
020415 北茨城・秋山 1♂
020522 里美・苗の平 1♂
62. ミズイロオナガシジミ
分布
調査地全域に広く分布する。
- 生息状況
コナラおよびコナラを混生する落葉広葉樹林に生息
する。
個体数は少ない～中位。
成虫の出現は年1回。
- 採集記録
020612 常陸太田・真弓 1♂
020628 日立・小木津山 1♂
- 020712 北茨城・小川 1♀
63. ミドリシジミ
分布
調査地全域に局所的に分布する。
- 生息状況
湿地に生育するハンノキに生息する。
個体数は、少ない～多い。多産することもある。
成虫の出現は年1回。
- 採集記録
020614 日立・茂宮 1♂1♀
64. ミヤマカラスシジミ
分布
夏緑樹林地域に局所的に分布する。
- 生息状況
茨城県希少種。
湿地や溪谷沿いに生息する。
個体数は少ない。
成虫の出現は年1回。
- 採集記録
020808 北茨城・和尚山 2♂
65. ミヤマシジミ
分布
現在知られているのは、北茨城市定波の一カ所だけ
である。1)
- 生息状況
夏緑樹林地域の草地で採集された。
- 採集記録
調査期間中に確認できなかった。
1) 高橋 潔(1994)北茨城市でのミヤマシジミの
記録 るりぼし 18: 32～33
66. ムモンアカシジミ
分布
山地に局所的に分布。
- 生息状況
茨城県希少種。
クヌギ林やコナラ林に生息する。
個体数は少ないが、多産した例もある。
成虫の出現は年一回。
- 採集記録
調査期間中に確認できなかった。

動物

67. ムラサキシジミ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

低地では照葉樹林，山地ではコナラを混生する落葉

広葉樹林に生息する。

低地では個体数は少ない～中位，山地では希～少ない。

成虫の出現は年2回。成虫越冬。

採集記録

020405 日立・東河内 1♀

020706 高萩・文添 1♀

020712 北茨城・小川 1♀

020731 里美・生田入 1♀

68. ムラサキツバメ

分布

太平洋岸の低地に分布する。

生息状況

数年前から茨城県に侵入した個体群。

植栽されたマテバシイに生息する。

個体数は少ない～多い。

成虫の出現は年2回以上3回の可能性がある。成虫越冬。

採集記録

011019 高萩・石滝 1♀

011020 北茨城・磯原 1♀

020812 日立・東多賀 1♂1♀

69. ヤマトシジミ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

人里の耕地の周辺や人家の庭先の草地に生息する。

個体数は中位～多産。

成虫の出現は年3～4回。

採集記録

020405 常陸太田・真弓 1♂

020415 高萩・秋山 1♀

020911 北茨城・松井 1♂

020912 里美・里川宿 1♂

70. ルリシジミ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

林縁や荒地，人家の庭先などにも生息する。

個体数は少ない～多い。

成虫の出現は年3回～4回。

採集記録

020330 日立・大沼 1♂

020408 里美・鬼越 1♂

020712 北茨城・小川 1♂1♀

020919 常陸太田・田渡 1♀

ウラギンシジミチョウ科

71. ウラギンシジミ

分布

低地から低～山地に分布する。

生息状況

人里や溪谷沿いに生息する。

個体数は少ない～中位。

成虫出現は年3回。成虫越冬する。

採集記録

010621 十王・伊吹台 1♂

020812 常陸太田・長谷 1♂1♀

020911 日立・折笠 1♂

020912 里美・三つ目 1♂

テングチョウ科

72. テングチョウ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

エノキを混生する林の周辺が生息地。

個体数は少ない。

成虫出現は年1回。成虫越冬する。

採集記録

020515 常陸太田・真弓山 1ex. (確認)

020703 里美・苗の平 1ex. (確認)

マダラチョウ科

73. アサギマダラ

分布

山地に局所的に分布。

生息状況

茨城県では，北上個体群と考えられているが，調査地域では土着地点が照葉樹林地域で一カ所知られている。山地で姿を見ることが多いが，高温期のみの生息地と考えられる。

個体数は少ない。
年数回の成虫出現と考えられる。

採集記録

000615	高萩・小滝沢	1 ♂
020503	常陸太田・真弓山	1 ♀
020725	北茨城・小川	1 ♂
020904	常陸太田・真弓山	1 ♂

タテハチョウ科

74. アカタテハ

分布
調査地全域に広く分布する。

生息状況
いたるところで姿を見ることができる。
個体数は少ない。
多化性で成虫は不定期に出現する。成虫越冬する。

採集記録

020415	北茨城・石岡	1 ♀
020616	日立・笹目牧場	1 ♂
020731	里美・生田入	1 ♀
020904	常陸太田・真弓	1 ♀

75. アサマイチモンジ

分布
調査地全域に広く分布するが、局所的である。

生息状況
林縁や荒地などに生息する。
個体数は少ない。
成虫の出現は年2回。

採集記録

020616	日立・笹目牧場	3 ♂
020619	高萩・中戸川	1 ♂
020703	里美・苗の平	1 ♂
020712	北茨城・小川	1 ♂

76. イチモンジチョウ

分布
調査地全域に広く分布する。

生息状況
林縁や人里、河川敷などの荒地に生息する。
個体数は少ない～中位。
成虫の出現は年2回。

採集記録

020529	常陸太田・真弓	1 ♂
020712	北茨城・小川	1 ♂

020718 里美・三鈷室 1 ♂

77. ウラギンスジヒョウモン

分布
中一山地に分布する。

生息状況
明るい草地に生息する。
個体数は少ない。
年一回の成虫出現。

採集記録

020718	里美・岡見	1 ♂
020725	北茨城・小川	1 ♂
020731	里美・生田入	1 ♀

78. ウラギンヒョウモン

分布
山地に分布する。

生息状況
草地に生息する。
個体数は少ない。
成虫出現は年1回。

採集記録

020616	日立・笹目牧場	1 ♂
020703	里美・苗の平	1 ♂
020712	北茨城・小川	1 ♂ 1 ♀

79. エルタテハ

分布
北茨城市花園の記録があるのみ。1)

生息状況
不明
8月に記録され、食餌植物(ハルニレ・シラカンバ)の存在から考えれば、土着種の可能性がある。本来は高一山地に生息する個体群。

採集記録
調査期間中には確認できなかった。
1) 茨城昆虫同好会事務局(1968)42年度新種採集記録 おけら第31号:2

80. オオウラギンスジヒョウモン

分布
山地に分布する。

生息状況
草地に生息する。
個体数は少ない。

動物

成虫出現は年1回。

採集記録

- 020718 里美・岡見 1♂
- 020808 北茨城・和尚山 1♂
- 020912 日立・西上淵 1♀

81. オオウラギンヒョウモン

分布

過去に若干の採集記録があるのみ。1)

生息状況

全国・茨城県絶滅危惧種
明るい草原。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

- 1) 塩田 正寛 (2002) 茨城県蝶類誌 (1) 採集記録 茨城県蝶類調査会

82. オオミスジ

分布

山地に分布する。

生息状況

人里のウメ林に生息する。
個体数は少ない～中位。
成虫の出現は年1回。

採集記録

- 020712 北茨城・小川 2♂3♀
- 020731 里美・生田入 1♂

83. オオムラサキ

分布

調査地全域に局所的に分布する。

生息状況

茨城県希少種。
エノキが混生する落葉広葉樹林に生息する。
個体数は少ない～中位。低地では個体数の多い地点が知られているが、山地では知られていない。
成虫の出現は年1回。

採集記録

- 020714 常陸太田・瑞龍 1♂
- 020823 常陸太田・茅根 1♀

84. キタテハ

分布

調査地全域に広く分布。

生息状況

明るい荒地に生息する。
個体数は中位～多い。
成虫出現は年3回。成虫越冬する。

採集記録

- 020415 常陸太田・真弓 1♀
- 020529 日立・東河内 1♂
- 020911 北茨城・松井 1♂
- 020912 里美・生田 1♂

85. キバリタテハ

分布

過去に北茨城市花園で若干の記録があるのみ。1)

生息状況

越冬個体が記録されている。
食餌植物(シラカンバ)の存在から考えて土着種の可能性はあるが、本来は、高一山地に生息する個体群である。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

- 1) 塩田 正寛 (2002) 茨城県蝶類誌 (1) 採集記録 茨城県蝶類調査会

86. ギンボシヒョウモン

分布

北茨城市花園山系で一つの記録があるのみ。1)

生息状況

文献には、採集記録を伴っていないので詳しい状況が分からないが、8月に21回の調査(3年間)を行っているのでそのときの記録と思われる。
本来は高一山地に生息する個体群であるが、食餌植物(スマレ類)の存在から考えて、個体数の極めて少ない土着種である可能性が高い。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

- 1) 茨城県立水戸第一高等学校生物同好会(1963)花園山系植物目録及蝶目録 (第1報): 1

87. クジャクチョウ

分布

夏緑樹林地域に分布するが、低一山地にも局所的に分布する。

生息状況

明るい草地や谷間に生息する。
個体数は夏緑樹林地域では少ない～中位、低一山地

では希.

成虫出現は年1回. 成虫越冬.

採集記録

020419 高萩・下君田 1♂

020703 里美・苗の平 1♂

020712 北茨城・小川 4♂

88. クモガタヒョウモン

分布

山地に分布する.

生息状況

明るい草地にや谷間に生息する.

個体数は少ない~中位.

成虫出現は年1回.

採集記録

020515 日立・東河内 1♂1♀

020523 十王・高原牧場 1♂

020601 里美・生田入 1♂1♀

020725 北茨城・小川 1♀

89. ゴマダラチョウ

分布

調査地全域に広く分布するが, 中一山地では局所的.

生息状況

エノキを混生する落葉広葉樹林に生息する.

個体数は山地では少なく, 低地では少ない~中位.

成虫の出現は年2回.

採集記録

010923 日立・大沼 1♂

020605 常陸太田・真弓 1♂

020703 里美・苗の平 1ex. (確認)

90. コミスジ

分布

調査地全域に広く分布する.

生息状況

林縁や荒地に生息する.

個体数は中位.

成虫の出現は年2~3回.

採集記録

020506 里美・七反 1♂

020522 高萩・上君田 1♂

020605 常陸太田・真弓 1♂1♀

020812 日立・笹目牧場 1♂

91. コムラサキ

分布

調査地全域に分布する.

生息状況

溪谷や湿地などの水辺周辺に生息する.

個体数は少ない~中位.

成虫の出現は年1~2回と思われる.

採集記録

020530 北茨城・富士ヶ丘 1♂

020712 高萩・柳沢 4♂

020731 里美・苗の平 1♂1♀

92. サカハチチョウ

分布

山地に分布する.

生息状況

溪谷沿いや林に生息する.

中一山地では普遍的に生息するが, 低一山地は局所的になる.

個体数は少ない~中位.

成虫出現は年2回.

採集記録

020506 里美・生田入 1♂

020522 高萩・上君田 1♂

020523 十王・高原牧場 1♀

020725 北茨城・小川 1♂

020912 里美・永戸 1♂1♀

93. シータテハ

分布

山地に分布する.

生息状況

溪谷周辺に生息する.

夏緑樹林地域では普遍的であるが, 低一山地では局所的である.

個体数は希れ~少ない.

成虫出現は年2回. 成虫越冬.

採集記録

020405 日立・笹目 1♀

020414 里美・生田入 1♂

020419 高萩・大金田 1♂

020712 北茨城・小川 1♂

動物

94. スミナガシ

分布

山地に分布。

生息状況

渓谷周辺に生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年2回

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

95. ツマグロヒヨウモン

分布

日立市大沼で1個体確認された。

生息状況

筑波山塊周辺では時々確認されるが連続した記録は

ない。調査地域では現在の所、北上個体群よりも

偶産種(迷蝶)の性質が強いと考えられる。

耕地の周辺に栽植されたクジャクソウに飛来した。

採集記録

010924 日立・大沼 1♀(確認)

96. ヒオドシチョウ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

エノキが混生する落葉広葉樹林周辺に生息する。

個体数は少ない~中位。

成虫の出現は年1回。成虫越冬。

採集記録

020614 常陸太田・真弓 1♂

020619 十王・小幡 1♂

020706 高萩・文添 1♂

020712 北茨城・小川 1♀

97. ヒメアカタテハ

分布

調査地全域に広く分布するが、北上個体群と考えられる。

生息状況

明るい草地や耕地周辺が生息地。

春~夏には散発的に姿を見せるが、秋季には普遍的に見られる。

個体数は、秋季は中位~多い。

成虫は越冬するが、調査地域での越冬は疑問である。

採集記録

020423 里美・生田入 1♀

020529 日立・東河内 1♀

020727 北茨城・小川 1♂

020904 常陸太田・真弓 3♂7♀

98. フタスジチョウ

分布

北茨城市花園での1個体の記録のみ。1)

生息状況

標高400m地点の人家の庭先のユキヤナギ(食餌植物の一つ)で採集された。

食餌植物であるシモツケ・ユキヤナギ・コデマリの存在から、高一山地個体群の生き残りの可能性があるが、栽培種であるユキヤナギやコデマリに付いた卵が運ばれた可能性も否定できない。近隣では栃木県戦場ヶ原が唯一の生息地である2)。

採集記録

調査期間中に確認できなかった。

1) 加藤一紀(1990)フタスジチョウ・リュウキュウムラサキ採集記 おけら No.56: 53~54

2) 昆虫愛好会(2000)新栃木県の蝶 205~206

99. ミスジチョウ

分布

山地に分布する。

生息状況

カエデ類が混生する林の周辺に生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年1回。

採集記録

000615 高萩・鳥曾根 1♂

000622 十王・豎割山 1♂

000717 里美・漆平 1♀

100. ミドリヒヨウモン

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

明るい草地に生息する。

個体数は少ない~中位。

成虫出現は年1回。

採集記録

020712 北茨城・小川 1♂1♀

020718 里美・三鈴室 1♂

020919 常陸太田・長谷 1 ♂

101. メスグロヒヨウモン

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

明るい草地に生息する。

個体数は少ない。

成虫出現は年1回。

採集記録

020712 北茨城・小川 1 ♂

020823 里美・永戸 1 ♂

020912 常陸太田・茅根 1 ♂

102. ルリタテハ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

林縁や荒れ地に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年2～3回。成虫越冬する。

採集記録

020405 日立・笹目 1 ♂

020619 十王・小幡 1 ♂

020712 北茨城・小川 1 ♂

020823 里美・生田 1 ♂

ジャノメチヨウ科

103. オオヒカゲ

分布

中～山地に分布する。

生息状況

林縁や林縁に近い林床に生息する。

個体数は少ない～中位。

年1回の成虫出現。

採集記録

020718 里美・里美牧場 1 ♂

020731 里美・生田入 1 ♂ 1 ♀

104. クロコノマチヨウ

分布

低地に局所的に分布する。山地にも記録があるが土着は疑わしい。

1990年代に入って茨城県に侵入し、土着したと思われる個体群。

生息状況

暗い林縁や林床など、最も暗い環境に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年2回。成虫越冬する。

採集記録

020822 日立・成沢 1 ♂ (夏型)

020904 常陸太田・真弓 1 ♂ (夏型)

020920 常陸太田・田渡 1 ♂ (夏型)

105. クロヒカゲ

分布

山地に分布する。

生息状況

暗い林縁や林床に生息する。

個体数は中位～多い。

成虫の出現は年2回。

採集記録

020530 北茨城・湯の前 1 ♀

020616 日立・笹目牧場 1 ♂

020731 里美・生田入 1 ♂

020904 常陸太田・真弓 1 ♂

106. コジャノメ

分布

低地～低～山地の下部に分布する。

中山地にも局所的に姿を見せるが、土着は疑問視される。

生息状況

照葉樹林などの最も暗い林床に生息する。

個体数は少ない。

成虫の出現は年2回。

採集記録

020515 日立・東河内 1 ♀

020530 北茨城・富士ヶ丘 1 ♂

020605 常陸太田・真弓 1 ♀

020706 高萩・文添 1 ♂

020823 里美・大中宿 1 ♀

107. サトキマダラヒカゲ

分布

低地～低～山地に分布する。

生息状況

林縁や林床に生息する。

個体数は中位～多産。

動物

成虫の出現は年2回。

採集記録

- 020515 常陸太田・田渡 1♂
- 020812 日立・笹目牧場 1♂
- 020823 里美・生田 1♂1♀

108. ジャノメチョウ

分布

調査地全域に分布する。

生息状況

牧場や耕地の周辺・河川敷・林間などの明るい草地に生息する。

個体数は中位～多い。牧場では多産することが多い。

成虫出現は年1回。

採集記録

- 020718 里美・里美牧場 1♂
- 020725 北茨城・小川 1♂1♀
- 020812 日立・笹目牧場 1♂
- 020912 里美・永戸 1♀

109. ヒカゲチョウ

分布

低地～低～山地に分布する。

生息状況

林縁や林床に生息する。

個体数は中位～多い。

成虫の出現は年2回。

採集記録

- 020605 常陸太田・真弓 1♂1♀
- 020706 高萩・文添 1♂
- 020823 里美・大中宿 1♀

110. ヒメウラナミジャノメ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

河川敷や牧場・林道の縁・耕地の周辺などの草地に生息する。

個体数は中位～多産。

成虫の出現は年2～3回。

採集記録

- 020506 里美・七反 1♂
- 020523 十王・高原牧場 1♂
- 020725 北茨城・小川 1♂

020912 里美・守金 1♂

111. ヒメキマダラヒカゲ

分布

夏緑樹林地域に分布する。

生息状況

茨城県希少種。

安定した夏緑樹林の林床や林縁に生息する。

個体数は少ない～中位。

成虫出現は年1回。

調査地域の個体群は、8月中旬から成虫が出現する。

栃木県での7月中旬に比べて遅い特徴を持つ。

1)

採集記録

020808 北茨城・和尚山 1♂

1) 昆虫愛好会(2000)新・栃木県の蝶 242～143

112. ヒメジャノメ

分布

調査地全域に広く分布する。

生息状況

林縁に生息する。

個体数は中位～多産。

成虫出現は年2回。

採集記録

- 020529 常陸太田・真弓 1♂
- 020823 里美・生田 1♂1♀
- 020912 里美・守金 1♂

113. ヤマキマダラヒカゲ

分布

山地に分布する。

生息状況

林縁や林床に生息する。

個体数は多いから多産。

成虫の出現は年2回。

採集記録

- 020506 里美・生田入 1♂
- 020522 高萩・上君田 1♂
- 020812 日立・笹目牧場 1♂1♀
- 020823 里美・森久保 1♂1♀

分布・生息状況のまとめ

1) 分布・生息状況の区分(表1)

調査地域のチョウ類の分布・生息状況を、大まかに

表 1. 茨城県北東地域のチョウの分布・生息状況概要 (図 2 参照).

全 域 (0-800 m)		低地～低一山地 (0-400 m)	山 地 (100-800 m)	中一山地 (400-800 m)	準土着種
オオチャバネセセリ キマダラセセリ ギンイチモンジセセリ コチャバネセセリ ダイミョウセセリ ミヤマセセリ カラスアゲハ キアゲハ キチョウ スジグロシロチョウ ツマキチョウ モンキチョウ モンシロチョウ アカシジミ ウラゴマダラシジミ ウラナミアカシジミ オオミドリシジミ クロシジミ* クロミドリシジミ ゴイシシジミ ツバメシジミ ベニシジミ ミズイロオナガシジミ	ミドリシジミ ムラサキシジミ ヤマトシジミ ルリシジミ ウラギンシジミ テングチョウ アカタテハ アサマイチモンジ イチモンジチョウ オオムラサキ* カタテハ ゴマダラチョウ コムシジ コムラサキ ヒオドリシチョウ ミドリヒョウモン メスグロヒョウモン ルリタテハ ジャノメチョウ ヒメウラナミジャノメ ヒメジャノメ	アゲハ クロアゲハ ジャコウアゲハ モンキアゲハ コジャノメ サトキマダラヒカゲ ヒカゲチョウ	アオバセセリ ヒメキマダラセセリ ホソバセセリ ミヤマチャバネセセリ オナガアゲハ ミヤマカラスアゲハ エゾスジグロシロチョウ ウラクロシジミ ウラギンシジミ ウラムシシジミ コツバメ トラフシジミ ムモンアカシジミ* ウラギンズジヒョウモン ウラギンヒョウモン オオウラギンズジヒョウモン オオミスジ クモガタヒョウモン サカハチチョウ スミナガシ ミスジチョウ クロヒカゲ ヤマキマダラヒカゲ	スジグロチャバネセセリ チャマダラセセリ* ホシチャバネセセリ* スジボソヤマキチョウ* ウラジロミドリシジミ** オナガシジミ ハヤシミドリシジミ** ミヤマカラスシジミ* クジャクチョウ シータテハ ヒメキマダラヒカゲ* オオヒカゲ ヘリグロチャバネセセリ カラスシジミ ミヤマシジミ	ムラサキツバメ クロコノマチョウ
照葉樹林 (スダシイ)	夏緑樹林 (ミズナラ・ブナ)	絶滅危惧種	高一山地個体群	北上個体群	偶産種
アオスジアゲハ	キバネセセリ* コキマダラセセリ* アイノミドリシジミ* ウスイロオナガシジミ* エゾミドリシジミ* ジョウザンミドリシジミ* スギタニルリシジミ* ヒメシジミ* フジミドリシジミ*	オオウラギンヒョウモン	エルタテハ キベリタテハ ギンボシヒョウモン フタスジチョウ	イチモンジセセリ チャバネセセリ ツマグロキチョウ ウラナミシジミ アサギマダラ ヒメアカタテハ	ツマグロヒョウモン

* : 茨城県希少種
** : 茨城県危急種 計 113種

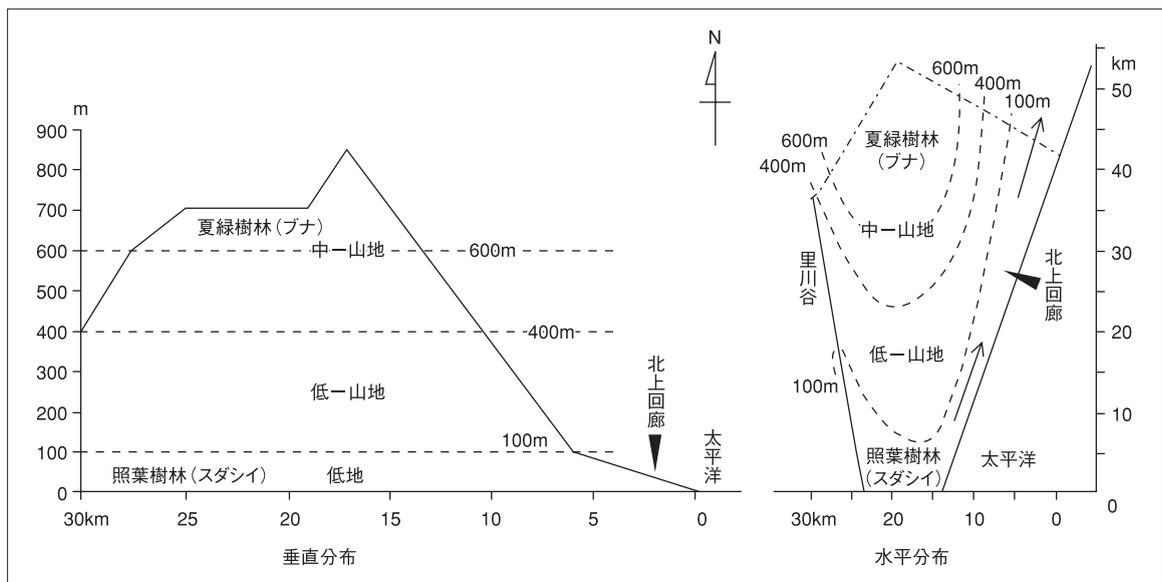


図 2. 茨城県北東地域のチョウ類の分布・生息状況概略 (表 1 参照).

動物

次のようにまとめた。もとより、種によってその性質は異なるので、少ないカテゴリーに押し込めるのは無理がないわけではないが、チョウ相全体を把握するには有効であると考えられる。

A 土着種

- ① 全域に分布する。
- ② 低地～低一山地に分布する。
- ③ 山地に分布する。
- ④ 中一山地に分布する。
- ⑤ 照葉樹林（タブ・スダシイ林）地域に分布する。
- ⑥ 夏緑樹林（ブナ・ミズナラ林）地域に分布する。
- ⑦ 絶滅危惧種。
- ⑧ 高一山地個体群（種）

B 準土着種

近年、調査地域に侵入し、成虫・蛹・幼虫・卵のどれかで越冬し、ここ数年間土着が確認できている個体群（種）。

C 土着疑問種

- ① 北上個体群（種）
- ② 偶産種（迷蝶）

・土着の判定

長年にわたり、その地域で生活史を繰り返している個体群を、土着または土着しているというが、この見極めは困難を伴う場合がある。飛翔力のあるチョウは、その個体を確認した地点が即、土着している地点とは限らない。成虫以外の卵・幼虫・蛹を確認すれば解決かというところも全てではない。成虫も含めて、低温期の冬季を過ごすことができるか否かが土着を決定づける不可欠条件になってくる。成虫の調査からこの問題を解決する方法として、成虫の出現時期と個体数および新鮮度の変化を年間を通して追跡する方法がある。これを、北茨城市小川（1989）、里美村岡見（1997）、日立市小木津山（1991）、久慈川沖積低地（1988）で実施した。この結果及び過去 40 年間の記録に基づいて土着を判定した。

2) チョウの生息環境である植生

土着の判定で示したように、気温の状態が変温動物であるチョウの生息に大きな影響を与えている。この温度分布は目で見えるものとして森林植生の違いとなって現れ、そこに生息するチョウを特徴づけている。

・照葉樹林（タブ・スダシイ林）

調査地域の標高 100 m 未満の地域には、タブを混生するスダシイ林が成立する。この植生環境は、調査地域では最も温暖な環境で、暖地性の強いチョウのグループが依存している。

・照葉樹林（シラカシ林）

スダシイ林の上にはシラカシ林が成立しその上限は標高 400 m に達する。この植生環境には、暖地性の弱いチョウが依存している。

・夏緑樹林（ブナ林・ミズナラを混生する二次林）

調査地域の、標高 600 m 以上の地域にはブナ林が成立し、茨城県では最も寒冷な環境を形成している。ここには寒地性の強いチョウのグループが依存している。

この地域の二次林としてミズナラを混生する落葉広葉樹林が成立する。規模は小さいが、山地性ゼフィルスの生息環境になっている。

・二次林と里山

温暖な低地～低一山地ではクスギ林が、寒冷な低一山地～中一山地にはコナラ林が二次林として成立し、これに隣接する人里（人家・屋敷林・耕地など）を含めていわゆる里山を形成している。この環境は栽培種も含めて多種の植物が生育し、これに依存するチョウは多い。

3) 調査地域の茨城県における蝶相の特徴

ひとつのまとまりを持った地域で照葉樹林～夏緑樹林まで連続する植生環境を持った地域は茨城県では他に例をみない。この多様な環境が調査地域の蝶相の特徴をつくりだす基になっている。

(1) 種類数の多さ

過去 50 年間で茨城県で記録されたチョウは土着疑問種も含めて、120 種になる。

そのうち、調査地で記録されたチョウは、113 種 94% に達する。調査地で未記録の種を検討し土着が確実な種のみに限れば、未記録種はヒメシロチョウ一種のみになる。

	茨城県	調査地	未記録種
セセリチョウ科	18 種	18 種	
アゲハチョウ科	11 種	9 種	ウスバシロチョウ ナガサキアゲハ
シロチョウ科	9 種	8 種	ヒメシロチョウ
シジミチョウ科	36 種	35 種	シルビアシジミ

マダラチョウ科	1種	1種	
テングチョウ科	1種	1種	
ウラギンシジミチョウ科	1種	1種	
タテハチョウ科	31種	29種	ヒョウモンモドキ リュウキュウムラサキ
ジャノメチョウ科	12種	11種	ウスイロコノマチョウ
計	120種	113種	(94%)

未記録種の内容

土着	ヒメシロチョウ
絶滅危惧種	ウスバシロチョウ
絶滅の可能性	ヒョウモンモドキ
北上個体群	ウスイロコノマチョウ
偶産種	リュウキュウムラサキ
記録が一つのみ	ナガサキアゲハ(幼虫), シルビヤシジミ

ギフチョウ(人為的放蝶)・コヒオドシ(誤同定)・イシガキチョウ(記録地・千葉県)の3種は、()の理由で除外した。

(2) 暖地性蝶類の北上回廊

茨城県より温暖な地域に分布の中心をもつ暖地性蝶類は、千葉県から茨城県南部に侵入し、調査地域の山地と太平洋岸に挟まれた帯状低地(標高100m未満・東西幅5km未満・南北40kmのスダシイを優先種とする照葉樹林地域)を北上して福島県浜通り地方に侵入する。土着種としてはモンキアゲハ・アオスジアゲハ・クロアゲハ・アゲハなどが通過し、最近ではクロコノマチョウ・ムラサキツバメが北上していった。この帯状地帯を「暖地性蝶類北上回廊」と仮に名付けたい。

(3) 茨城県希少種の生息地

シジミチョウ科の中にその生態から、ゼフィルスと呼ばれるグループがある。茨城県では17種が記録されているが、調査地域にはその全てが生息する。さらに、標高600m以上の山地に生育するミズナラ・ブナには、山地性ゼフィルスが生息する。しかもその全てが茨城県レッドデータブックにおいて希少種に位置づけられている。

さらに、カシワに依存するウラジロミドリシジミ・ハヤシミドリシジミの2種は茨城県危急種に指定されている。その内のハヤシミドリシジミは、絶滅の可能性が大きくなっている。

山地性ゼフィルス

茨城県希少種

アイノミドリシジミ, ウスイロオナガシジミ, エゾミドリシジミ, ジョウザンミドリシジミ, フジミドリシジミ

茨城県危急種

ウラジロミドリシジミ, ハヤシミドリシジミ

たしかに、調査地は茨城県希少種ゼフィルスの全ての生息地である。しかし、裏を返せば山地の開発にもなって夏緑樹林の伐採が進み、わずかに残されたブナ林・カシワ・二次林内のミズナラにかろうじて命脈を保っているのが現状である。生息環境の規模があまりにも小さいのである。これが希少種にならざるを得ない理由である。

ゼフィルス以外にも調査地域には茨城県希少種が生息する。以下の種である。

茨城県希少種

キバネセセリ, コキマダラセセリ, チャマダラセセリ, ホシチャバネセセリ

スジボソヤマキチョウ

スギタニルリシジミ, ミヤマカラスシジミ, ヒメシジミ

ヒメキマダラヒカゲ

これらのチョウも夏緑樹林と無縁ではない。この環境に生育する植物を食餌植物とし、無機的環境に適応している。しかし、茨城県内で夏緑樹林が成立する標高600m以上の山地面積の大部分を占める北茨城市・里美村・高萩市の夏緑樹林と二次林はそのほとんどが針葉樹林化され、本来の植生環境が破壊されてしまった。針葉樹林化の歴史は古く現在も進められている。針葉樹林化が、希少種を生み出したもう一つの理由である。

その他の希少種

調査地域

茨城県希少種

クロシジミ, ムモンアカシジミ

オオムラサキ(全県に分布。低地に生息地が多い)

茨城県絶滅危惧種

オオウラギンヒョウモン(全県の低地～低山地に分布)

動物

調査地以外

茨城県絶滅危惧種

ウスバシロチョウ

茨城県希少種

ヒメシロチョウ

茨城県希少種・危急種・絶滅危惧種総計 22種
調査地域総計 20種
(91%)

(4) 高一山地個体群の生息

標高 1,000 m ~ 亜高山帯までの山地に生息するものを、高一山地個体群と名付けた。茨城県では 1,022 m が最高地点であるため、高一山地の環境は存在しない。しかし過去の記録を追ってみると、この環境に生息する個体群(種)の次のような記録がみられる。

採集年月 食餌植物

他所での記録

エルタテハ

1966. 8 ハルニレ, シラカンバ, ダケカンバ
なし

キベリタテハ

1963. 5 シラカンバ, ダケカンバ
筑波山(1963) 八溝山(1974)

ギンボシヒョウモン

1963 スミレ類
男体山(1950) 八溝山(1979)

フタスジチョウ

1976. 7 シモツケ, ユキヤナギ, コデマリ
御前山(1966)

食餌植物の状態

ハルニレ: 花園山・高萩花貫溪谷・袋田・大子・御前山
ややまれ 1)

シラカンバ: 花園山・三鈷室山・八溝山・大子
茨城県希少種 1) 2)

ダケカンバ: 高萩君田・八溝山
茨城県希少種 1) 2)

スミレ類: 花園山で普通に産する種は 12 種を数える。 1)

シモツケ: 山地にやや普通。 1)

ユキヤナギ・コデマリ: 人家に普遍的に植栽されている。

食餌植物から考察すれば、4 種が生息できない理由はないが、気温等の環境要因は最適であるとは言い難い。推察すれば、シラカンバやダケカンバと同じように遺存的な生息状況であったと思われる。個体数も少なく、採集即絶滅という状態にあったと考えられる。

記録の多い 1960 年代は、花園山地に調査の手が多く入り始まった時期と一致する。また、1960 年代にも、花園山地の夏緑樹林の伐採が行われていたことを目撃している。

- 1) 鈴木昌友ら(1981) 茨城県植物誌 茨城県植物誌刊行会
- 2) 茨城県希少野生生物(植物部門)保護対策検討委員会(1997) 茨城における絶滅のおそれのある野生生物(植物編) 茨城県版レッドデータブック 茨城県

まとめ

- 1) 2000 年~ 2002 年の 3 年間の調査記録と過去の自己の記録に基づき調査地域のチョウをまとめた。
- 2) 文献に記録されている種も含めて、9 科 113 種を報告した。
- 3) 9 科 113 種を、土着種・土着疑問種に区分し、さらに細分して調査地域に生息するチョウ分布・生息状況をまとめた。
- 4) 調査地域の特徴として、以下の 4 点を取り上げた。
 - (1) 種類数の多さ。113 種は、茨城県で記録された種の 94% を占める。
 - (2) 暖地性蝶類の北上回廊が存在する。
 - (3) ヒメシロチョウ・ウスバシロチョウを除く、茨城県の希少種・危急種・絶滅危惧種の全ての生息地である。
 - (4) 高一山地個体群が遺的に生息している。

調査研究および執筆

塩田正寛

付表 1. 茨城県北東地域のチョウ類リスト.

チョウ目チョウ類

セセリチョウ科 HESPERIIDAE

1. アオバセセリ
Choaspes benjaminii japonica (Murray)
2. イチモンジセセリ
Parnara guttata guttata (Bremer et Grey)
3. オオチャバネセセリ
Polytremis pellucida pellucida (Murray)
4. キバネセセリ
Bibasis aquillina chrysaeglia (Butler)
5. キマダラセセリ
Potanthus flavus flavus (Murray)
6. ギンイチモンジセセリ
Lepotalina unicolor (Bremer et Grey)
7. コキマダラセセリ
Ochlodes venatus venatus (Bremer et Grey)
8. コチャバネセセリ
Toressa varia (Murray)
9. スジグロチャバネセセリ
Thymelicus leoninus leoninus (Bremer)
10. ダイミヨウセセリ
Daimio tethys tethys (Menetries)
11. チャバネセセリ
Polopides mathis oberthueri Evans
12. チャマダラセセリ
Prygus maculatus maculatus (Bremer et Grey)
13. ヒメキマダラセセリ
Ochlodes ochracea (Bremer)
14. ヘリグロチャバネセセリ
Thymelicus sylvaticus sylvaticus (Bremer)
15. ホシチャバネセセリ
Aeromachus inachus inachus (Menetries)
16. ホソバセセリ
Isoteinon lamprospilus lamprospilus C. et R. Felder
17. ミヤマセセリ
Erynnis mantanus (Bremer)
18. ミヤマチャバネセセリ
Pelopidas jansonia (Butler)

アゲハチョウ科 PAPILIONIDAE

19. アオスジアゲハ
Graphium sarpedon nipponium (Fruhstorfer)

20. アゲハ

Papilio xuthus Linnaeus

21. オナガアゲハ

Papilio macilentus Janson

22. カラスアゲハ

Papilio bianor dehaanii C. et R. Felder

23. キアゲハ

Papilio machaon hippocratas C. et R. Felder

24. クロアゲハ

Papilio protenor dometrius Stoll

25. ジャコウアゲハ

Byasa alcinous alcinous (Klug)

26. ミヤマカラスアゲハ

Papilio maackii Menetries

27. モンキアゲハ

Papilio helenus nicconicolens Butler

シロチョウ科 PIERIDAE

28. エゾスジグロシロチョウ

Pieris napi japonica Shirozu

29. キチョウ

Eurema hecabe hecabe Linnaeus

30. スジグロシロチョウ

Pieris melete melete Menetries

31. スジボソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia nipponica Bollow

32. ツマキチョウ

Anthocharis scolymus Butler

33. ツماغロキチョウ

Eurema laeta bethescaba (Janson)

34. モンキチョウ

Colias erate poliographus Motschulsky

35. モンシロチョウ

Pieris rapae crucivora Boisduval

シジミチョウ科 LYCAENIDAE

36. アイノミドリシジミ

Chrysozephyrus brilliantinus (Staudinger)

37. アカシジミ

Japonica lutea (Hewitson)

38. ウスイロオナガシジミ

Antigus butleri (Fenton)

39. ウラキンシジミ
Ussuriana stygiana (Butler)
40. ウラクロシジミ
Iratsume orsedica orsedica (Butler)
41. ウラゴマダラシジミ
Artopoetes pryeri (Murray)
42. ウラジロミドリシジミ
Favonius saphirinus (Staudinger)
43. ウラナミアカシジミ
Japonica saepestriata saepestriata (Hewitson)
44. ウラナミシジミ
Lampides boeticus (Linnaeus)
45. ウラミスジシジミ
Wagimo signata (Butler)
46. エゾミドリシジミ
Favonius jezoensis (Matsumura)
47. オオミドリシジミ
Favonius orientalis (Murray)
48. オナガシジミ
Araragi enthes enthea (Janson)
49. カラスシジミ
Stymonidia w-album fentoni (Butler)
50. クロシジミ
Niphonda fusca (Bremer et Grey)
51. クロミドリシジミ
Favonius yuasai Shirozu
52. ゴイシシジミ
Taraka hamada hamada (H. Druce)
53. コツバメ
Callophrys ferrea (Butler)
54. ジョウザンミドリシジミ
Favonius auronius (Bremer)
55. スギタニルリシジミ
Celastrina sugitanii sugitanii (Mutsumura)
56. ツバメシジミ
Everes argiades hellotia (Menetries)
57. トラフシジミ
Rapala arata (Bremer)
58. ハヤシミドリシジミ
Favonius ultramarinus (Fixsen)
59. ヒメシジミ
Plebejus argus micrargus (Butler)
60. フジミドリシジミ
Shibatanoiozephyrus fujisana (Matsumura)
61. ベニシジミ
Lycaena phlaeas daimio (Mutsumura)
62. ミズイロオナガシジミ
Antigius attilia attilia (Bremer)
63. ミドリシジミ
Neozephyrus japonicus (Murray)
64. ミヤマカラスシジミ
Stymonida mera (Janson)
65. ミヤマシジミ
Lycaeisis argyronomon pyaeterinsularis (Verity)
66. ムモンアカシジミ
Shirozua jonasi (Janson)
67. ムラサキシジミ
Narathura japonica japonica (Murray)
68. ムラサキツバメ
Narathura bazalus turbata (Butler)
69. ヤマトシジミ
Zizeeria maha argia (Menetries)
70. ルリシジミ
Celastrina argiolus ladonides (de l'Orza)
- ウラギンシジミチョウ科 CURETIDAE
71. ウラギンシジミ
Curetis acuta paracuta de Niceville
- テングチョウ科 LIBYTHIDAE
72. テングチョウ
Libythea celtis celtoides Fruhstorfer
- マダラチョウ科 DANAIDAE
73. アサギマダラ
Parantica sita nipponica (Moore)
- タテハチョウ科 NIMPHALIDAE
74. アカタテハ
Vanessa indica indica (Harbst)
75. アサマイチモンジ
Ladoga glorifica (Fruhstorfer)
76. イチモンジチョウ
Ladoga camilla japonica (Menetries)
77. ウラギンスジヒョウモン
Argyrome laodeca japonica (Menetries)
78. ウラギンヒョウモン
Fabriciana adippe pallescens (Butler)

79. エルタテハ
Nymphalis vaualbum samurai (Fruhstorfer)
80. オオウラギンヒョウモン
Fabriciana nerippe (C. et R. Felder)
81. オオウラギンスジヒョウモン
Argyronome ruslana lysippe (Janson)
82. オオミスジ
Neptis alwina (Bremer et Grey)
83. オオムラサキ
Sasakia charanda charanda (Murray)
84. キタテハ
Polygonia c-aureum (Linnaeus)
85. キベリタテハ
Nymphalis antiopa asopos (Fruhstorfer)
86. ギンボシヒョウモン
Speyeris aglaja fortuna (Janson)
87. クジャクチョウ
Inachus io geisha (Stichel)
88. クモガタヒョウモン
Nephargynnis anadyomen midas (Butler)
89. ゴマダラチョウ
Hestina japonica (C. et R. Felder)
90. コミスジ
Neptis sappho intermedia W. B. Pryer
91. コムラサキ
Apatura metis substituta Butler
92. サカハチチョウ
Araschnia burejana Bremer
93. シータテハ
Polygonia c-album hamigera (Butler)
94. スミナガン
Dichorragia nesimachus nesiotas Fruhstorfer
95. ツマグロヒョウモン
Argyreus hyperbius hiperbius (Linnaeus)
96. ヒオドシチョウ
Nymphalis xanthomelas japonica (Stichel)
97. ヒメアカタテハ
Cynthia cardui (Linnaeus)
98. フタスジチョウ
Neptis rivularis (Scopoli)
99. ミスジチョウ
Neptis philyra excellens Butler
100. ミドリヒョウモン
Argynnis paphia tsushimana Fruhstorfer
101. メスグロヒョウモン
Damora sagana liana (Fruhstorfer)
102. ルリタテハ
Kaniska canaca nojaponicum (von Siebold)
- ジャノメチョウ科 SATYRIDAE
103. オオヒカゲ
Ninguta schrenckii (Menetries)
104. クロコノマチョウ
Melanitis phedima oitensis Matsumura
105. クロヒカゲ
Lethe diana diana (Butler)
106. コジャノメ
Mycalesis flancisca perdiccas Hewitson
107. サトキマダラヒカゲ
Neope goschkevitschii (Menetries)
108. ジャノメチョウ
Minois dryas bipunctata (Motschulsky)
109. ヒカゲチョウ
Lethe sicelis (Hewitson)
110. ヒメウラナミジャノメ
Ypthima aygus Butler
111. ヒメキマダラヒカゲ
Zophoessa callipteris (Butler)
112. ヒメジャノメ
Mycalesis gotama fulginia Fruhstorfer
113. ヤマキマダラヒカゲ
Neope nipponica nipponica Butler

9科 113種

茨城県東部のバッタ・ナナフシ・
ゴキブリ・カマキリ類

はじめに

茨城県東部に分布するバッタ類の特徴を挙げると、太平洋岸の北限もしくは北限に近い種が比較的多く見られることである。北限にあたる種はカヤキリ、オオクサキリ、クロツヤコオロギで、比較的北限に近い種はシブイロカヤキリ、クツワムシ（今回は確認できなかった）、マツムシなどが挙げられる。

これらの種類の中にはシブイロカヤキリのように、近年の地球温暖化による影響のためか分布域を北上させている種が見られる。中には単に調査が不足しているだけで実際はもっと北に分布している種が含まれている可能性もあるが、今回の調査の重要な点は現時点での生息状況をできる限り正確に記録し、将来再び同様の調査を実施した際に過去と比較できる資料をつくっておくことであると考え。

調査はバッタ目だけでなく、ナナフシ目、ゴキブリ目、カマキリ目についても若干実施したが、この仲間は種類が少ないこととバッタ目と一緒に扱うことが多いので、ここでもまとめて扱った。また現地調査の他に文献の記録や過去の標本の記録も含めた。

なお採集や目撃、鳴き声の確認記録で氏名のないものは筆者によるものである。

本文に入るに先立ち、標本を提供された久保田正秀、写真を提供された塩田正寛の両氏に厚くお礼申し上げます。

調査の概要

① 調査範囲：茨城県東部

阿武隈山地の多賀山地とその周辺久慈川以北の低地

② 調査期間

2000年7月～2003年8月

③ 現地調査の日

2000年

7月2日, 8月17日, 9月2, 18日, 10日5日

2001年

5月12, 22日, 6月4, 16日, 8月20日, 9月18, 19, 24日, 10月16日, 11月11, 23日

2002年

4月16日, 6月24日, 7月12, 15, 22日, 8月9, 10, 20, 21日, 10月7日, 18, 27日

2003年

4月27日, 5月1, 3, 7日, 7月6日, 8月11, 13, 20, 25, 26, 28日

調査結果

以下のように4目, 18科, 89種を記録した。目録の和名および学名は主に市川(2003)によった。

また井上(1991)が高萩市から記録したクロスジコバネササキリモドキはトゲヌキコバネササキリモドキの誤りであったので、訂正してこの目録に含めた。

確認した種の目録

バッタ目 ORTHOPTERA

コロギス科 Gryllacridae

1. コロギス

Prosopogryllacris japonica (Matsumura et Shiraki)

2. ハネナシコロギス

Nippancistroger testaceus (Matsumura et Shiraki)

カマドウマ科 Rhabdophoridae

3. マダラカマドウマ

Diestrammena japonica Blatchley

4. コノシタウマ *Tachycines elegantissima* (Griffini)5. クラズミウマ *Tachycines asynamorus* (Adelung)

キリギリス科 Tettigoniidae

6. ヤブキリ *Tettigonia orientalis* Uvalov7. ヤマヤブキリ *Tettigonia yama* Furukawa8. ヒガシキリギリス *Gampsocleis mikado* Burr

9. ヒメギス

Eobiana engelhardti subtropica (Bey-Bienko)

10. コバネヒメギス *Metrioptera bonneti* (Bolivar)

11. ハヤシノウマオイ

Hexacentrus hareyamai Furukawa

12. カヤキリ *Pseudorhynchus japonicus* Shiraki13. クサキリ *Ruspolia lineosa* (Walker)

14. ヒメクサキリ

Ruspolia jezoensis (Matsumura et Shiraki)

15. オオクサキリ *Ruspolia* sp.

16. シブイロカヤキリ (シブイロカヤキリモドキ)

Xestophrys javanicus Redtenbacher

17. クビキリギス *Euconocephalus varius* (Walker)

18. ホシササキリ

Conocephalus maculatus (Le Guillou)

19. オナガササキリ
Conocephalus gladius (Redtenbacher)
20. ウスイロササキリ
Conocephalus chinensis (Redtenbacher)
21. コバネササキリ
Conocephalus japonicus (Redtenbacher)
- ササキリモドキ科 Meconematidae
22. トゲヌキコバネササキリモドキ
Cosmetura fenestrata Yamasaki
23. ヒメヤブキリモドキ
Tettigoniopsis forcipercus Yamasaki
- ツユムシ科 Phaneropteridae
24. ツユムシ *Phanoptera falcata* (Poda)
25. アシグロツユムシ
Phanoptera nigroantennata Brunner von Wattenwyl
26. セスジツユムシ *Ducetia japonica* (Thunberg)
27. エゾツユムシ
Kuwayamaea sapporensis Matsumura et Shiraki
28. ホソクビツユムシ
Shirakisotima japonica (Matsumura et Shiraki)
29. サトクダマキモドキ
Holochlora japonica Brunner von Wattenwyl
- コオロギ科 Gryllidae
30. クロツヤコオロギ
Phonarellus ritsemae (Saussure)
31. タンボコオロギ *Modicogryllus siamensis* Chopard
32. クマコオロギ *Mitius minor* (Shiraki)
33. ヒメコオロギ
Comidogryllus nipponensis (Shiraki)
34. モリオカメコオロギ
Loxoblemmus sylvestris Matsumura
35. ハラオカメコオロギ
Loxoblemmus campestris Matsuura
36. タンボオカメコオロギ
Loxoblemmus aomoriensis Shiraki
37. ミツカドコオロギ *Loxoblemmus doenitzi* Stein
38. ツヅレサセコオロギ
Velarifictorus micado (Saussure)
39. エンマコオロギ
Teleogryllus emma (Ohmachi et Matsuura)
40. クマスズムシ
Sclerogryllus punctatus (Brunner von Wattenwyl)
- マツムシ科 Eneopteridae
41. マツムシ
Xenogryllus marmoratus marmoratus (De Haan)
42. アオマツムシ *Truljalia hibinonis* (Matsuura)
43. スズムシ *Meloimorpha japonica* (De Haan)
44. カンタン *Oecanthus longicauda* Matsumura
45. ヒロバネカンタン *Oecanthus euryelytra* Ichikawa
- ヒバリモドキ科 Triognidiidae
46. クサヒバリ *Svistella bifasciatum* (Shiraki)
47. キンヒバリ *Natula matsuurai* Sugimoto
48. ヤマトヒバリ *Homoeoxipha obliterated* (Caudell)
49. キアシヒバリモドキ
Trigonidium japonicum Ichikawa
50. ヤチスズ *Pteronemobius ohmachi* (Shiraki)
51. エゾスズ *Pteronemobius yezoensis* (Shiraki)
52. シバスズ *Polionemobius mikado* (Shiraki)
53. マダラスズ
Dianemobius nigrofasciatus (Matsumura)
54. カワラスズ
Dianemobius furumagiensis (Ohmachi et Furukawa)
- ケラ科 Gryllotalpidae
55. ケラ *Gryllotalpa orientalis* Burmeister
- カネタタキ科 Mogoplistidae
56. カネタタキ *Ornebius kanetataki* (Matsumura)
- ノミバツタ科 Tridactylidae
57. ノミバツタ *Xya japonica* (De Haan)
- ヒシバツタ科 Tetrigidae
58. トゲヒシバツタ *Crietettix japonicus* (De Haan)
59. ハネナガヒシバツタ
Euparatettix insularis Bey-Bienko
60. コバネヒシバツタ
Formosatettix larvatus Bey-Bienko
61. ハラヒシバツタ *Tetrix japonica* (Bolivar)
62. アズマモリヒシバツタ
Tetrix kantoensis kantoensis Uchida et Ichikawa
- オンブバツタ科 Pyrgomorphidae
63. オンブバツタ *Atractomorpha lata* (Motschulsky)

イナゴ科 Catantopidae

64. ハネナガイナゴ *Oxya japonica* (Thunberg)
 65. コバネイナゴ *Oxya yezoensis* Shiraki
 66. ツチイナゴ *Patanga japonica* (Bolivar)
 67. ヤマトフキバツタ
Parapodisma setouchiensis Inoue
 68. アオフキバツタ *Parapodisma subaptera* (Hebard)
 69. ハネナガフキバツタ
Ognevia longipennis (Shiraki)

バツタ科 Acrididae

70. ショウリョウバツタ *Acrida cinerea* (Thunberg)
 71. ツマグロバツタ *Stethophyma magister* (Rehn)
 72. ヤマトマダラバツタ
Epacromius japonicus (Shiraki)
 73. トノサマバツタ *Locusta migratoria* (Linnaeus)
 74. クルマバツタ
Gastrimargus marmoratus (Thunberg)
 75. クルマバツタモドキ *Oedaleus infernalis* Saussure
 76. イボバツタ *Trilophidia japonica* Saussure
 77. ナキイナゴ *Mongolotettix japonicus* (Bolivar)
 78. ヒロバネヒナバツタ *Stenobothrus fumatus* Shiraki
 79. ヒナバツタ
Glyptobothrus maritimus maritimus (Mistshenko)

ナナフシ目 PHASMATODEA

ナナフシ科 Phasmatidae

1. エダナナフシ
Phraortes illepidus (Brunner von Wattenwyl)
 2. ヤスマツトビナナフシ
Micadina yasumatsui Shiraki
 3. シラキトビナナフシ *Micadina* sp.

ゴキブリ目 BLATTARIA

ゴキブリ科 Blattidae

1. クロゴキブリ
Periplaneta fuliginosa (Audinet-Serville)
 2. ヤマトゴキブリ *Periplaneta japonica* Karny
 3. オオゴキブリ
Panesthia angustipennis spadica (Shiraki)

カマキリ目 MANTEODEA

カマキリ科 Manteidae (Mantidae)

1. オオカマキリ *Tenodera aridifolia* (Stoll)

2. チョウセンカマキリ (カマキリ)
Tenodera angustipennis Saussure
 3. コカマキリ
Statilia maculata (Thunberg and Lundahl)
 4. ウスパカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus)

注目すべき種の解説

- ① ヤブキリ *Tettigonia orientalis* Uvalov とヤマヤブキリ *Tettigonia yama* Furukawa

ヤマヤブキリ *T. yama* について市川 (2003) は、本種を独立種 (群) としている。ヤブキリ *T. orientalis* は「チキチキチキチ」と長く伸ばして鳴き「長鳴き型」または「長鳴型」と呼ばれるが、本地域の低地の個体は「ジー」という感じである。北茨城市花園山周辺の個体は「チキチキチキ」で、テンポが遅い感じがする。ヤマヤブキリ *T. yama* の方は切って鳴く型で「切り鳴き」または「短鳴型」と呼ばれるものである。両種は県北部山地において同所的に分布するが、前者は比較的高木の上に生息し、後者はかん木 (ブッシュ) のような所に生息するので、すみわけていえる。ヤマヤブキリは本県の平野部に生息しないが、日立市などでは海岸の崖の樹上にも生息する。

- ② カヤキリ *Pseudorhynchus japonicus* Shiraki

本種はススキ群落に生息する種で、県版レッドリストにおいて希少種 (R) にランクされている (茨城県生活環境部 2000)。従来茨城県ひたちなか市が太平洋岸の北限であったが、今回の調査で以下の地点で確認された。実際の分布は福島県いわき市まで伸びている可能性がある。13年前にシーズン期間中に調査を実施した高萩市内からは確認されなかった。シブイロカヤキリと同様に、分布を北へ広げている可能性が大きい。日本海側の北限は新潟県である。

北茨城市磯原町磯原・磯原工業団地土手, 26- viii-2003, 1 ♂採集; 日立市東大沼町, 26- viii-2003, 1 ♂ (鳴き声); 常陸太田市白羽町, 28- viii-2003, 1 ♂ (鳴き声); 常陸太田市大森町, 25- viii-2003, 1 ♂採集, 2 ♂ (鳴き声)

- ③ オオクサキリ *Ruspolia* sp. (図 1)

本種は日本固有種で、遺存的な分布を示す種である。県版レッドリストにおいて絶滅危惧種 (E) にランクされている (茨城県生活環境部 2000)。茨城、栃木、群馬、千葉、東京、新潟、福岡、大分の各都県から発見されており、太平洋側では茨城県北部が北限で

ある。県内からは北から高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市、大洗町、旭村、東町、桜川村、龍ヶ崎市、鹿嶋市、神栖町、波崎町などに局地的に生息している。東京都（多摩川）からの記録は現在生息が確認されておらず、絶滅した可能性が大きい。筆者が調査した地域のうち現在国内で生息面積が広いのは、霞ヶ浦沿岸（東町、桜川村）、鹿行地区沿岸（鹿嶋市、神栖町、波崎町）、渡良瀬遊水池、新潟平野海岸周辺である。このように国内に点々と隔離分布しているのは、おそらく古い時代に広く分布していたものが、何らかの理由で絶滅しつつあるのではないかと考えられる。

今回の調査地域では高萩市高浜町（井上，1991）と日立市みなと町（茨城県生活環境部，2000）から生息記録があったが、高萩市では1989年以後ほぼ毎年シーズンに調査しているが確認されていない。近年では1998年8月9日，2001年8月20日，2003年8月26日に実施したが確認できなかった。日立市みなと町（久慈町の記録は，みなと町の誤り）の生息地は1987年8月15日に1頭の雄が鳴いているのを発見した。しかし1991年から毎年1回は発生シーズンに見ているが確認されていない。特に1995年からは筆者の通勤の途中コースになったため一層注意していたが確認されず、絶滅した可能性がある。

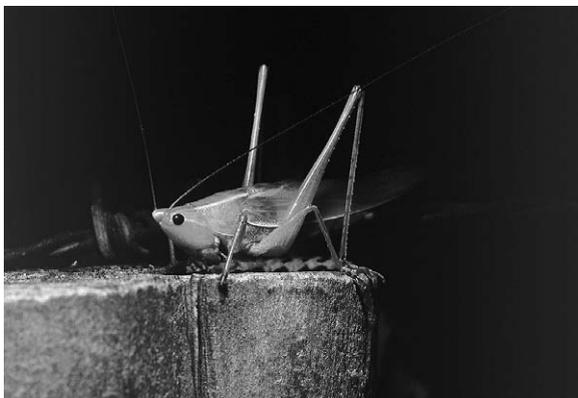


図 1. オオクサキリ♂。
日立市みなと町，1987年8月15日

① シブイロカヤキリ（シブイロカヤキリモドキ）

Xestophrys javanicus Redtenbacher

本種もカヤキリ同様、植物群落の遷移初期にあたるススキ群落に生息する習性がある。そのため飛翔によって移動する習性が強いように思われる。従来茨城県が北限とされていたが、最近福島県いわき市からも発見され、北上していることが指摘された（井上，2003）。地球温暖化が一因ではないかと思われる。13年程前に実施した高萩市の調査（井上，1991）では確

認できなかったが、今回の調査区域では既に報告した高萩市や北茨城市（井上，2003）だけでなく、十王町、日立市、里美村、水府村のいくつかの地区から確認された。乗用車を運転中に鳴き声を聴いた場合は野帳に記録できなかったことも多いので、一部のデータしか示せないが鳴き声の数から見て、たとえ移動性があるにしても県北地域に定着していることは確実である。しばしば同所的にクビキリギス *Euconocephalus varius* (Walker) が鳴いているが、声の大きさや音質から区別できる。声の数から見た限り、シブイロカヤキリの生息地ではクビキリギスよりも多い印象を受けている。

久慈郡里美村小菅篠手，7- v-2003，1♂（鳴き声）；里美村上深萩河原野，7- v-2003，3♂（鳴き声）；多賀郡十王町高原，7- v-2003，1♂採集，3♂（鳴き声）；十王町友部・十王ダム付近，7- v-2003，3♂（鳴き声）；日立市助川町助川市民の森・ススキ群落，12- v-2002，1♂（目撃）；日立市多賀町よかっぺ通り空き地，4- vi-2001，1♂（鳴き声）；日立市東大沼町，16- iv-2002，3♂（鳴き声）；日立市大みか町日立製作所大みか工場前，4- vi-2001，2♂（鳴き声）；日立市茂宮町，3- v-2003，1♂（鳴き声）；常陸太田市小目町，3- v-2003，2♂（鳴き声）

② クロツヤコオロギ

Phonarellus ritsemae (Saussure) (図 2)

国内分布が限定される種で、県版レッドリストにおいて絶滅危惧種（E）にランクされている（茨城県生活環境部 2000）。県内唯一の記録地が高萩市上手網で



図 2. クロツヤコオロギ♂。
高萩市上手網の標本

あり、ここが北限となっている(井上, 1989)。隔離分布することから遺存種と考えられる。しかし1992年から生息が確認できず、絶滅した可能性がある。近年では1998年8月9日, 2001年6月16日, 2002年6月24日に調査したが、シーズン中の鳴く時間帯であるにもかかわらず声を確認できなかった。

生息環境は山沿いの畑の土手であり、草刈など常に人為的な手が加えられている。成虫、幼虫とも土手などに穴を掘って生活する習性がある。他県の生息地も、やはり畑周辺であり(静岡県の茶畑など)、毎年草刈をするなど、人為による環境への関わりが本種の生存に関わっていると考えられる。

③ マツムシ

Xenogryllus marmoratus marmoratus (De Haan)

本種は有名な鳴く虫であるが、北限の福島県に近いところが高萩市石滝の海岸に唯一カ所しか生息地が見つかっていない。県版レッドリストにおいて希少種(R)にランクされている(茨城県生活環境部2000)。阿武隈山地の茨城県側では、かつて生息していたという情報もあるが標本が残っていないので不明である。高萩市の生息地は毎年発生しているが個体数が少なく、北限に近い分布地として貴重である。

⑦ アオマツムシ *Truljalia hibinonis* (Matsuura) (図3)

本種の県北部における記録は1990年に高萩市下大能の山中で初めて鳴き声が聴かれたが(井上, 1990)、その後徐々に増え現在では県北部に広く分布し、特に市街地に多い。北限は岩手県にまで達している(市川, 2003)。高萩市の山中は例外的な記録で、通常は公園や街路樹など人工的な環境に多い。



図3. 鳴くアオマツムシ。
2002年10月, 塩田正寛撮影

⑧ スズムシ *Meloimorpha japonica* (De Haan)

本種は鳴く虫としてペットショップでも売られ珍しくないが、本地域における自然分布は比較的北限に近いところか少ない。野外で鳴き声を確認できたのは以下の地区のみである。

日立市水木町2丁目・日立電鉄線土手, 12-ix-1995, 数個体(鳴き声); 常陸太田市町屋町(1♂)・常福地町・茅根町(3♂)・白羽町(2♂), 25-viii-2003, (カッコ内は鳴き声を聴いた個体数)

日立市水木町の例は1度のみで、その後シーズンに何度か訪れているが鳴き声が聴かれず、放たれた飼育個体の可能性がある。水府村や金砂郷町あたりでは南向きの畑の土手などに点々と生息地があるが、不思議なことに日立市から北茨城市までの太平洋沿岸では、上記以外の生息地が見つかっていない。日立市内は筆者の勤務地があるので、夜間市内を車で走る機会が多いが、上記以外の場所では一度も鳴き声を聴いていない。

⑨ ヒロバネカントアン *Oecanthus euryelytra* Ichikawa

本県では海岸付近に点々と生息地が発見されているが、本調査地域では高萩市石滝に1カ所のみ生息地があり毎年発生している。しかし生息地周辺が資材置き場にされたりして環境の改変が激しい。

本来自然度の高い海岸に生息する種と考えられるが、以前より関西では市街地にも生息し注目されていた。ところが近年では千葉県北西部の松戸市や市川市、船橋市などでも市街地に進出するようになった。本県ではまだそのような現象は見つかっていないが、上記のような現象は個体群の一部が都市化された環境に適応して習性を変化させた一例ではないかと考えられる。

④ アズマモリヒシバツタ

Tetrix kantoensis kantoensis Uchida et Ichikawa

1999年に記載された種で(Uchida & Ichikawa)、筆者によって採集された北茨城市関本町産の標本が副模式標本となっている。また記載論文に使われた標本としては、この茨城県産が最も早く採集された記録である。県外の分布は福島県、新潟県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、山梨県、長野県北部であるが(市川, 2003)、県北部山地に広く分布するであろう。

⑤ ヤマトマダラバツタ

Epacromius japonicus (Shiraki) (図4)

本種は自然度の高い海浜に生息し県内でも生息地が限られているが、本調査区域では高萩市石滝のみから

記録がある。県版レッドリストにおいて危急種 (V) にランクされている (茨城県生活環境部 2000)。生息環境は資材置き場にされ非常に厳しい状況にあるが、毎年細々と発生している。



図 4. ヤマトダグラバッタ若齢幼虫。
高萩市石滝町, 2001年6月4日

⑥ ヤスマツトビナナフシ

Micadina yasumatsui Shiraki

県全体のナナフシ目の調査は不十分である。次種とともに本種は井上 (1993) が報告した茨城県のナナフシ目のリストになかったので、以下に採集記録を示しておく。

北茨城市定波, alt. 600 m, 13- viii-1983, 1 ♀ (久保田正秀); 北茨城市和尚山, alt. 600 m, 10- viii-1977, 2 ♀ (久保田正秀)

⑬ シラキトビナナフシ *Micadina* sp.

上記の種を含め、これで県産のナナフシ目は5種類となる。

北茨城市和尚山, alt. 600 m, 10- viii-1977, 3 ♀ (久保田正秀)

⑦ オオゴキブリ

Panesthia angustipennis spadica (Shiraki)

本地域のゴキブリ類の調査は不十分で、衛生害虫であるチャバネゴキブリも生息が予想されるが、まだ確実な記録を知らない。オオゴキブリは茨城県から既に記録があるが (井上, 1993), 本調査地域からは記録がなかったので採集記録を示しておく。野外にのみ生息し、住居には侵入しない種なので普段目に触れにくい

が、おそらく阿武隈山地に広く分布するであろう。

常陸太田市大森町・風神山, 1- v -2003, 1 ex.

文 献

- 廣瀬 誠. 1993. その他の昆虫類, In: 里美の自然: 169-179. 里美村教育委員会
- 茨城県生活環境部. 1995. 茨城県の特定動植物の分布—動物編— (平成5・6年). 417 pp.
- 茨城県生活環境部. 2000. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<動物編>, 195 pp.
- 市川顕彦. 2003. 日本産直翅類のカタログ (Catalog of Japanese Orthopteroidea) Ver. 6. 2. 7(CD-W).
- 井上尚武. 1986. 茨城県の直翅類 (跳躍目), 茨城県高等学校教育研究会生物部会誌, 50: 133-144.
- 井上尚武. 1989. 阿武隈山地南部でクロツヤコオロギを採集, 月刊むし, 226: 20.
- 井上尚武. 1990. 高萩市の山中でアオマツムシの声を聴く, 昆虫と自然, 25 (13): 13-14.
- 井上尚武. 1991. 直翅系昆虫 (バッタ目, ナナフシ目, ゴキブリ目, カマキリ目), In: 高萩の動物, 207-232. 高萩市.
- 井上尚武. 1993. ゴキブリ目 BLATTARIA, カマキリ目 MANTEODEA, バッタ目 ORTHOPTERA, ナナフシ目 PHASMIDA, In: 茨城県の昆虫: 42-43, 45-53, 水戸市立博物館.
- 井上尚武. 1995. シブイロカヤキリモドキの北限調査, おけら, 59: 57-58.
- 井上尚武. 1996. 阿武隈山地の直翅類分布資料, ぱったりぎす, 110: 72-77.
- 井上尚武. 2003. 北上するシブイロカヤキリモドキ—地球温暖化の影響か—茨城県高等学校教育研究会生物部会誌, 81: 40-43.
- 井上尚武・豊崎永英. 1997. 日立市の山火事跡の自然環境調査, 茨城県立多賀高等学校紀要: 1-14.
- Uchida, M. and A. Ichikawa. 1999. Descriptions of three new species and two new subspecies of the genus *Tetrix* LATREILLE (Orthoptera: Tetrigidae) from the Kanto District, Central Japan. *Tettigonia*, 1 (2): 83-98.

調査研究および執筆

井上尚武

